

科目名	経営のためのデータ解析		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目では、ビジネスデータの分析に必要な統計解析手法を学ぶ。「仮説検定」ならびに「分散分析」の手法について、Excel ならびにSPSSを用いた演習を通して学習する。

マーケティングなどのためのアンケート調査の結果について、応用的なデータ分析ができる能力を身につけることを目標としている。

内容

1. アンケートデータの特徴
2. 二乗検定(1) 適合度の検定
3. 二乗検定(2) 独立性の検定
4. 二乗検定の応用問題・SPSSの利用法
5. 平均の差の検定について・t分布とF分布
6. 2群の母平均の差の検定(1) 等分散を仮定したt検定
7. 2群の母平均の差の検定(2) 分散が異なる場合を仮定したt検定
8. 対応のあるデータの差のt検定
9. t検定の応用問題
10. 分散分析(一元配置)
11. 分散分析(繰り返しのない二元配置)
12. 分散分析の応用問題
13. 総合問題(1)
14. 総合問題(2)
15. まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

1. 授業における課題提出(30%)
2. 最終課題の達成度(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に使用しない 必要に応じて授業時に資料を配布

科目名	経営のためのデータ解析		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目では、ビジネスデータの分析に必要な統計解析手法を学ぶ。「仮説検定」ならびに「分散分析」の手法について、Excel ならびにSPSSを用いた演習を通して学習する。

マーケティングなどのためのアンケート調査の結果について、応用的なデータ分析ができる能力を身につけることを目標としている。

内容

1. アンケートデータの特徴
2. 二乗検定(1) 適合度の検定
3. 二乗検定(2) 独立性の検定
4. 二乗検定の応用問題・SPSSの利用法
5. 平均の差の検定について・t分布とF分布
6. 2群の母平均の差の検定(1) 等分散を仮定したt検定
7. 2群の母平均の差の検定(2) 分散が異なる場合を仮定したt検定
8. 対応のあるデータの差のt検定
9. t検定の応用問題
10. 分散分析(一元配置)
11. 分散分析(繰り返しのない二元配置)
12. 分散分析の応用問題
13. 総合問題(1)
14. 総合問題(2)
15. まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

1. 授業における課題提出(30%)
2. 最終課題の達成度(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に使用しない 必要に応じて授業時に資料を配布

科目名	経営のためのデータ解析		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会調査には統計処理を前提としてデータを扱う量的調査と、事例データを社会的文脈に即して分析する質的調査の2つのタイプがある。この授業では、ドキュメント分析、インタビュー調査、非参与観察、参与観察といった質的調査の技法を学ぶ。それぞれの単元毎に課題提出があり(自分史の分析、インタビュー調査の設計、タウンウォッチングの設計、参与観察の設計)、学期末には、実際にいずれかの方法で質的調査を実施した結果をレポートにして提出する。

内容

1	質的調査の基本的性格
2	ドキュメント分析1: 公的記録の分析
3	ドキュメント分析2: 私的記録の分析1
4	ドキュメント分析3: 私的記録の分析2
5	インタビュー調査1: インタビューの種類
6	インタビュー調査2: インタビュー調査の事例1
7	インタビュー調査3: インタビュー調査の事例2
8	インタビュー調査4: インタビュー調査の設計
9	非参与観察1: 非参与観察の事例
10	非参与観察2: 非参与観察の設計
11	参与観察1: 参与観察の事例
12	参与観察2: 参与観察の技法
13	参与観察3: 参与観察の設計
14	質的調査と倫理
15	総括

評価

授業時の課題提出(40%)と学期末のレポート(60%)で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】

桜井 厚『インタビューの社会学』せりか書房、2002年。

W.I.トマス/F.ズナニエツキ『生活史の社会学』桜井 厚訳、御茶の水書房、1983年。

中野 卓『口述の生活史』御茶の水書房、1977年。

W.F.ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』寺谷弘士訳、垣内出版、1979年。

佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992年。

科目名	経営のためのデータ解析		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会調査には統計処理を前提としてデータを扱う量的調査と、事例データを社会的文脈に即して分析する質的調査の2つのタイプがある。この授業では、ドキュメント分析、インタビュー調査、非参与観察、参与観察といった質的調査の技法を学ぶ。それぞれの単元毎に課題提出があり(自分史の分析、インタビュー調査の設計、タウンウォッチングの設計、参与観察の設計)、学期末には、実際にいずれかの方法で質的調査を実施した結果をレポートにして提出する。

内容

1	質的調査の基本的性格
2	ドキュメント分析1: 公的記録の分析
3	ドキュメント分析2: 私的記録の分析1
4	ドキュメント分析3: 私的記録の分析2
5	インタビュー調査1: インタビューの種類
6	インタビュー調査2: インタビュー調査の事例1
7	インタビュー調査3: インタビュー調査の事例2
8	インタビュー調査4: インタビュー調査の設計
9	非参与観察1: 非参与観察の事例
10	非参与観察2: 非参与観察の設計
11	参与観察1: 参与観察の事例
12	参与観察2: 参与観察の技法
13	参与観察3: 参与観察の設計
14	質的調査と倫理
15	総括

評価

授業時の課題提出(40%)と学期末のレポート(60%)で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】

桜井 厚『インタビューの社会学』せりか書房、2002年。

W.I.トマス/F.ズナニエツキ『生活史の社会学』桜井 厚訳、御茶の水書房、1983年。

中野 卓『口述の生活史』御茶の水書房、1977年。

W.F.ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』寺谷弘士訳、垣内出版、1979年。

佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992年。

科目名	運営管理論		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

経営科学の基本的な考え方と分析方法を学習する。

経営科学とは、経営上の問題を対象に、問題の要因と問題との関係を特定して数学的なモデルを構築し、そのモデルから導かれる解を現実の問題解決に役立てようとするものである。本講義では、統計学の復習から始めて、時系列分析と回帰分析による需要予測、在庫問題、線形計画法などについて学ぶ。

分析手法を理解し、Excel を用いてシミュレーションする方法を習得する。講義に加えてExcelでの演習を課すことで、典型的な問題をコンピュータを用いて自分で解決できるようになることを目標とする。

内容

- 1) 経営科学の概要
- 2) 統計学復習(1) 度数分布
- 3) 統計学復習(2) 統計的推測と検定
- 4) 時系列分析
- 5) 回帰分析
- 6) Excel による実習
- 7) 在庫管理
- 8) Excel による実習
- 9) 線形計画法(1) グラフによる理解
- 10) 線形計画法(2) シンプレックス法
- 11) Excel による実習
- 12) 待ち行列問題の概要
- 13) 待ち行列理論
- 14) シミュレーション
- 15) Excel による実習

評価

演習などにおける授業態度(30%)

レポート課題(70%)

合計で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	ビジネス実務法務		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性質

学科専門科目の「経営科目群」に位置づけられる。「消費者と法」とともに履修すると、ビジネスを行う上での法的課題を経営者側・消費者側双方の視点から検討でき、理解が深まる。

科目の概要

金融業・不動産業・販売業などお金が動くビジネスの場面を想定して、関連する法律と問題解決法を学ぶ。事例を基礎におき、具体的には、民法総則、物権法、担保物権法、債権法といった民法の各分野をはじめ、その他各種私法がどのように関係し、問題解決の機能を果たしているのかについて学ぶ。またその限界や課題についても検討する。

学習目標

- ・ビジネスに関連する基本的な法律の知識と教養を身につける。
- ・事例を検討することにより、論理的思考力や課題解決力の養成を目指す。
- ・事例や時事問題を利用し、文章読解力・文章表現力を身につける。

内容

1	ガイダンス 金融と法律・金融と民法
2	ビジネスの主体(自然人・法人)
3	ビジネスと代理
4	消費者金融ビジネスと法
5	中古品販売ビジネスと法
6	新品販売ビジネスと法
7	不動産の賃貸借ビジネスと法(1)
8	不動産の賃貸借ビジネスと法(2)
9	不動産の販売ビジネスと法(1)
10	不動産の販売ビジネスと法(2)
11	事例演習
12	住宅ローンと抵当権
13	預金取引と法律
14	企業の社会的責任と法令遵守
15	総括

評価

レポート、ワークシート等の提出物・受講態度(50点)、ペーパーテスト(50点)を総合して評価する。100点満点中60点が単位取得の下限である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

開講時に指示する。

科目名	意思決定手法		
担当教員名	安田 順		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目では、社会のどの分野で活動するにしても必要となる問題解決のプロセスについて検討する。

授業では、問題解決の基盤にあるリフレクション(reflection; 省察)という概念を取り上げる。さらに、このリフレクションを使って、日常場面やビジネス場面で質の高い問題解決、スピーディな問題解決がどうしたら実現できるか考える。

この授業の目標は、

第一にリフレクションは過去をふり返ることに限定されず、未来を予測することも重要な側面であるという、その全体像とプロセスを理解すること、

第二にその理解を小テスト・期末試験において明確に示せるようになること、

第三に演習を通して問題解決能力を向上させることである。

内容

- 1 問題解決とリフレクション
- 2 過去をふり返るリフレクション
- 3 未来を予測するリフレクション
- 4 リフレクションの基盤にあるもの
- 5 リフレクションへの反対勢力
- 6 対人での問題解決
- 7 グループでの問題解決
- 8 リフレクションのフレームとは
- 9 リフレクションのレパートリーとは
- 10 問題解決を妨げるもの
- 11 問題解決の系譜(1)
- 12 問題解決の系譜(2)
- 13 問題解決のためのコミュニケーション(1)
- 14 問題解決のためのコミュニケーション(2)
- 15 まとめ

評価

期末試験(60%)、授業冒頭の小テスト(40%)という配分で評価する。また、授業中に作成・提出するリアクションペーパーの内容は加点要素として評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。必要に応じて、授業中にプリントを配付する。

推薦書は授業中に適宜紹介する。

科目名	企業情報システム 1 (経営学演習)		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ERP (統合基幹情報システム) パッケージソフトの世界標準となっているSAP 社、ならびに、SAP-R/3 の有力テンプレートであるリアルモデルを用いて行われる経営シミュレーション演習。演習 では「リアルモデルアカデミー初級」として、R/3 を実際に操作することによりERP を学ぶとともに、企業における仕事の実務というものを知る。そして、R/3 の運用により、取引の入力から貸借対照表や損益計算書が作成されるまでのプロセスを知ることにより、ビジネスの流れと簿記会計の関連性を理解する。この演習は、R/3 が実際企業で使用されているのと同環境のもとで行なわれ、世界の先駆的実践経営シミュレーション演習である。受講者には初歩的な簿記、会計の知識が要求される。

内容

1	SAP-R3 を用いてERP (統合基幹情報システム) に関する概要理解
2	R3 の操作演習 (1) : 基礎
3	R3 の操作演習 (2) : 実践
4	財務管理 (FI) モジュールを使用し、各種会計取引の入力 (1)
5	財務管理 (FI) モジュールを使用し、各種会計取引の入力 (2)
6	財務管理 (FI) モジュールを使用し、各種会計取引の入力 (3)
7	財務管理 (FI) モジュールを使用し、各種会計取引の検索 (1)
8	財務管理 (FI) モジュールを使用し、各種会計取引の検索 (2)
9	英文による上記会計処理演習 (1)
10	英文による上記会計処理演習 (2)
11	損益計算書, 貸借対照表の作成 (1)
12	損益計算書, 貸借対照表の作成 (2)
13	R/3 先進導入企業の事例研究 (1)
14	R/3 先進導入企業の事例研究 (2)
15	まとめ

評価

評価方法は、授業への参加態度 (30 点)、毎回の演習問題の提出 (20 点)、期末試験 (50 点) による総合的な評価とし、60 点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業の中でレジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	企業情報システム 1 (経営学演習)		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ERP (統合基幹情報システム) パッケージソフトの世界標準となっているSAP 社、ならびに、SAP-R/3 の有力テンプレートであるリアルモデルを用いて行われる経営シミュレーション演習。演習 では「リアルモデルアカデミー初級」として、R/3 を実際に操作することによりERP を学ぶとともに、企業における仕事の実務というものを知る。そして、R/3 の運用により、取引の入力から貸借対照表や損益計算書が作成されるまでのプロセスを知ることにより、ビジネスの流れと簿記会計の関連性を理解する。この演習は、R/3 が実際企業で使用されているのと同環境のもとで行なわれ、世界の先駆的実践経営シミュレーション演習である。受講者には初歩的な簿記、会計の知識が要求される。

内容

1	SAP-R3 を用いてERP (統合基幹情報システム) に関する概要理解
2	R3 の操作演習 (1) : 基礎
3	R3 の操作演習 (2) : 実践
4	財務管理 (FI) モジュールを使用し、各種会計取引の入力 (1)
5	財務管理 (FI) モジュールを使用し、各種会計取引の入力 (2)
6	財務管理 (FI) モジュールを使用し、各種会計取引の入力 (3)
7	財務管理 (FI) モジュールを使用し、各種会計取引の検索 (1)
8	財務管理 (FI) モジュールを使用し、各種会計取引の検索 (2)
9	英文による上記会計処理演習 (1)
10	英文による上記会計処理演習 (2)
11	損益計算書, 貸借対照表の作成 (1)
12	損益計算書, 貸借対照表の作成 (2)
13	R/3 先進導入企業の事例研究 (1)
14	R/3 先進導入企業の事例研究 (2)
15	まとめ

評価

評価方法は、授業への参加態度 (30 点)、毎回の演習問題の提出 (20 点)、期末試験 (50 点) による総合的な評価とし、60 点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業の中でレジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	企業情報システム 2 (経営学演習)		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ERP (統合基幹情報システム) パッケージソフトの世界標準となっているSAP 社、ならびに、SAP-R3 の有力テンプレートであるリアルモデルを用いて行われる経営シミュレーション演習。演習 では「リアルモデルアカデミー中級」として、購買管理 (MM)、生産管理 (PP)、販売管理 (SD)、管理会計 (CO)、プロジェクト会計 (PS) のモジュールを使用し、それぞれの業務内容や各業務における情報の流れについて学ぶ。これにより、経営学や企業戦略論等で学んだ会社経営についての疑似的体験学習を行う。

受講者には企業情報システム 1 の既習が望まれる。

内容

1	企業における業務システムの概要
2	取引入力 of 復習
3	取引検索 of 復習
4	購買活動に関する業務 (1) : 業務処理の理解、取引入力 of 説明
5	購買活動に関する業務 (2) : 取引入力 of 練習
6	生産活動に関する業務 (1) : 業務処理の理解、取引入力 of 説明
7	生産活動に関する業務 (2) : 取引入力 of 練習
8	販売活動に関する業務 (1) : 業務処理の理解、取引入力 of 説明
9	販売活動に関する業務 (2) : 取引入力 of 練習
10	管理会計と財務会計について : 会計システムの理解、取引入力 of 説明
11	経営における組織管理と管理会計について : 取引入力 of 説明・練習
12	英文による上記会計処理演習
13	R / 3 を操作するためのプログラミング基礎
14	購買・生産・販売に至る一連の業務活動プロセスについての練習
15	まとめ

評価

評価方法は、授業への参加態度 (20 点)、毎回の演習問題の提出 (30 点)、期末試験 (50 点) による総合的な評価により、60 点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業の中で講義レジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	インターンシップ		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。インターンシップを履修する学生は、前期に「インターンシップ入門」を履修すること

科目の概要

10日もしくは60時間以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。終了後、9 - 10月に開催される報告会で報告というすべての課程を終了することで評価の対象になる。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。インターンシップに参加した学生の方が内定を早く取れる傾向がみられる。

内容

1. 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを選んで行う。学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

人間生活学部生活情報学科専門科目「インターンシップ入門」を事前に受講することが望ましい。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込：「インターンシップ入門」の授業で受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導：「インターンシップ入門」で、インターンシップの内容、ビジネスマナー、心構えなどの事前指導を行う。

担当教員：2年生はクラス担当教員、3・4年生はゼミ担当教員が期間中に訪問し、巡回指導を行う。

3. 実施例(2012年度)

新座市役所、志木市役所、朝霞市役所、和光市役所、あさ出版、NHK出版、埼玉新聞社、クレッシェンド、東和エンジニアリング、蓼科情報、東急アド・コミュニケーションズ、トップシーン、日本ケンタッキー・フライド・チキン、丸正飯塚

評価

学生：実習・研修の成果をレポートにまとめる。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

受け入れ先：受け入れ先の担当責任者から実習内容の評価を記した「評価表」を提出してもらう。

巡回指導：実施期間中に教員が受け入れ先を訪問する巡回指導を行い、実施状況を確認する。

評価は学生のレポート(40点)、受け入れ先評価(40点)、教員による巡回指導の状況確認(20点)の計100点で

総合的に判断して行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

随時紹介する

科目名	インターンシップ		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。インターンシップを履修する学生は、前期に「インターンシップ入門」を履修すること

科目の概要

10日もしくは60時間以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。終了後、9 - 10月に開催される報告会で報告というすべての課程を終了することで評価の対象になる。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。インターンシップに参加した学生の方が内定を早く取れる傾向がみられる。

内容

1. 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを選んで行う。学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

人間生活学部生活情報学科専門科目「インターンシップ入門」を事前に受講することが望ましい。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込：「インターンシップ入門」の授業で受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導：「インターンシップ入門」で、インターンシップの内容、ビジネスマナー、心構えなどの事前指導を行う。

担当教員：2年生はクラス担当教員、3・4年生はゼミ担当教員が期間中に訪問し、巡回指導を行う。

3. 実施例(2012年度)

新座市役所、志木市役所、朝霞市役所、和光市役所、あさ出版、NHK出版、埼玉新聞社、クレッシェンド、東和エンジニアリング、蓼科情報、東急アド・コミュニケーションズ、トップシーン、日本ケンタッキー・フライド・チキン、丸正飯塚

評価

学生：実習・研修の成果をレポートにまとめる。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

受け入れ先：受け入れ先の担当責任者から実習内容の評価を記した「評価表」を提出してもらう。

巡回指導：実施期間中に教員が受け入れ先を訪問する巡回指導を行い、実施状況を確認する。

評価は学生のレポート(40点)、受け入れ先評価(40点)、教員による巡回指導の状況確認(20点)の計100点で

総合的に判断して行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

随時紹介する

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「キングレコード」プロデュースによる「音楽文化とビジネスの現場」

女性の感性の大切な部分をしめ、学生の音楽とビジネスへの関心がますます高まる今、キングレコードと関係する企業のトップ、幹部、社員から直接、音楽文化とビジネスの魅力、課題を学ぶ。「メディアの中の音楽」、「音楽トレンドと展望」、「キングレコードの歴史～現在」、「アーティスト、クリエイターの視点」、「CD制作現場とプロセス」「音楽企画作成実習」など幅広い学びと、音楽業界で働くことの楽しさ・厳しさを、講義、企画、実習、見学を通して吸収し、キャリアアップにも資する。(授業項目は見学期日等、一部微調整の可能性ある)

内容

1	オリエンテーション、この講座のねらい
2	音楽業界の現状と問題点
3	音楽パッケージビジネスの基本
4	著作権、権利ビジネスについて
5	音楽配信ビジネスに関して
6	キングレコードの歴史～現在
7	レコード会社の職種と求められる人材
8	CD制作現場～プロセス
9	メディアの中の音楽、音楽番組プロデューサーの視点から
10	アーティスト、クリエイタ の視点から
11	音楽トレンド、今後の展望
12	企画書プレゼンテーション等
13	関口台スタジオ見学等
14	キングレコード現場スタッフと交流等
15	キングレコード社長挨拶：まとめ

評価

授業への取り組み70点、試験30点の計100点で60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じて紹介する

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。インターンシップを履修する学生は、前期に「インターンシップ入門」を履修すること

科目の概要

5日・35時間以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。終了後、9-10月に開催される報告会で報告というすべての課程を終了することで評価の対象になる。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。インターンシップに参加した学生の方が内定を早く取れる傾向がみられる。

内容

1. 特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを選んで行う。

学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

人間生活学部生活情報学科専門科目「インターンシップ入門」を事前に受講することが望ましい。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込：「インターンシップ入門」の授業で受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導：「インターンシップ入門」で、インターンシップの内容、ビジネスマナー、心構えなどの事前指導を行う。

参加学生は、実習・研修の成果をまとめたレポートを作成しキャリアセンターに提出する。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

報告会への参加：キャリアセンターが実施する報告会で報告

3. 短期インターンシップ実施例(2012年度)

りそな銀行、リコージャパン、さいたま市役所、興文堂、ウテナ、燦クリーン、日本管財、ウム・ヴェルト、富士急行

評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

随時紹介する。

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。インターンシップを履修する学生は、前期に「インターンシップ入門」を履修すること

科目の概要

5日・35時間以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。終了後、9-10月に開催される報告会で報告というすべての課程を終了することで評価の対象になる。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。インターンシップに参加した学生の方が内定を早く取れる傾向がみられる。

内容

1. 特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを選んで行う。

学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

人間生活学部生活情報学科専門科目「インターンシップ入門」を事前に受講することが望ましい。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込：「インターンシップ入門」の授業で受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導：「インターンシップ入門」で、インターンシップの内容、ビジネスマナー、心構えなどの事前指導を行う。

参加学生は、実習・研修の成果をまとめたレポートを作成しキャリアセンターに提出する。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

報告会への参加：キャリアセンターが実施する報告会で報告

3. 短期インターンシップ実施例(2012年度)

りそな銀行、リコージャパン、さいたま市役所、興文堂、ウテナ、燦クリーン、日本管財、ウム・ヴェルト、富士急行

評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

随時紹介する。

科目名	経営学基礎		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

経営の入門講座として経営の基礎理論と基礎概念を習得することをねらいとする。

企業とは、私たちの生活に必要な商品やサービスを生産し社会に供給することを目的とした、現代社会における大きな社会的発明である。商品やサービスの生産活動は、政府や地方自治体、財団や社団といった非営利法人、さらには個人によっても行われている。しかしながら、それら商品やサービスの生産セクターの内で、最も効果的かつ効率的に生産活動を行うことができるのが企業という仕組みである。

本講座では、企業とはどのような仕組みや構造になっており、また、どのようなメカニズムで運営されているのかについて、初心者が理解できるようわかりやすく解説する。

本講座を履修することにより、経営で取り上げられる諸テーマに関し、それらの経営管理体系における位置づけや相互の関連性が理解できるようになり、その後における、経営管理論や企業戦略論等、経営に関する基幹・関連科目の修得や理解が容易となるよう配慮する。

内容

1	経営学とは:]経営の目的、三つの経営課題、経営学の主要テーマ
2	経済的価値の創出(1):]経済的価値の構成、嗜好的価値、機能的価値、情動的価値、
3	経済的価値の創出(2):]マズローの欲求5段階説、欲求と経済的価値
4	商品とは:]製品と商品、商品の経済的価値、商品の類型
5	ブランド:]ブランドの意義、ブランドの類型
6	商品市場(1):]市場の定義、需要と供給、市場の構成要素(3C)
7	商品市場(2):]顧客分析、顧客満足度による分類、ロジャーズの普及理論
8	商品市場(3):]競合分析、マーケット・シェア、競争優位性、競争モデル
9	マーケティング(1):]マーケティングの4P、商品(Product)
10	マーケティング(2):]価格(Price)、販売チャネル(Place)、販売促進(Promotion)
11	会社とは(1):]会社の種類-株式会社、合名会社、合資会社、合同会社、LLP
12	会社とは(2):]株式会社の特徴、資本と経営の分離、株式、会社の機関
13	組織マネジメント(1):]組織化の意義、経営組織、ライン組織、スタッフ組織
14	組織マネジメント(2):]マネジメント・サイクル、予算制度、動機づけ
15	まとめ

評価

本講座における評価方法は、期末試験(50点)、授業態度(10点)、小テスト及び小レポート提出(40点)とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	経営学基礎		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

経営の入門講座として経営の基礎理論と基礎概念を習得することをねらいとする。

企業とは、私たちの生活に必要な商品やサービスを生産し社会に供給することを目的とした、現代社会における大きな社会的発明である。商品やサービスの生産活動は、政府や地方自治体、財団や社団といった非営利法人、さらには個人によっても行われている。しかしながら、それら商品やサービスの生産セクターの内で、最も効果的かつ効率的に生産活動を行うことができるのが企業という仕組みである。

本講座では、企業とはどのような仕組みや構造になっており、また、どのようなメカニズムで運営されているのかについて、初心者が理解できるようわかりやすく解説する。

本講座を履修することにより、経営で取り上げられる諸テーマに関し、それらの経営管理体系における位置づけや相互の関連性が理解できるようになり、その後における、経営管理論や企業戦略論等、経営に関する基幹・関連科目の修得や理解が容易となるよう配慮する。

内容

1	営学とは:]経営の目的、三つの経営課題、経営学の主要テーマ
2	経済的価値の創出(1):]経済的価値の構成、嗜好的価値、機能的価値、情動的価値、
3	経済的価値の創出(2): マズローの欲求5段階説、欲求と経済的価値
4	商品とは: 製品と商品、商品の経済的価値、商品の類型
5	ブランド: ブランドの意義、ブランドの類型
6	商品市場(1): 市場の定義、需要と供給、市場の構成要素(3C)
7	商品市場(2): 顧客分析、顧客満足度による分類、ロジャーズの普及理論
8	商品市場(3): 競合分析、マーケット・シェア、競争優位性、競争モデル
9	マーケティング(1): マーケティングの4P、商品(Product)
10	マーケティング(2): 価格(Price)、販売チャネル(Place)、販売促進(Promotion)
11	会社とは(1): 会社の種類-株式会社、合名会社、合資会社、合同会社、LLP
12	会社とは(2): 株式会社の特徴、資本と経営の分離、株式、会社の機関
13	組織マネジメント(1): 組織化の意義、経営組織、ライン組織、スタッフ組織
14	組織マネジメント(2): マネジメント・サイクル、予算制度、動機づけ
15	まとめ

評価

本講座における評価方法は、期末試験(50点)、授業態度(10点)、小テスト及び小レポート提出(40点)とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業において、適時関連するレジユメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	ビジネス経済学		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必修科目であり、経済学の基礎を学習する。

科目の概要

経済学の基礎を学習し、現実経済の諸問題について考察できることをめざす。また、日本経済が抱える諸問題、円高、財政赤字、震災復興、社会保障などについて学習する。

学修目標

経済学の基礎的な概念を理解する。また、日本経済の代表的な問題について理解する。

内容

1	ガイダンス
2	経済学の考え方
3	ミクロ経済学 1 : 市場競争
4	ミクロ経済学 2 :
5	マクロ経済学 1 :
6	マクロ経済学 2
7	金融政策
8	財政政策と財政赤字
9	中間試験
10	バブル崩壊後の日本経済
11	グローバルな金融危機と日本経済
12	外国為替市場と日本経済
13	社会保障
14	日本的経営
15	まとめ

評価

中間テスト(30%)、学期末テスト(70%)で評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

開講時に指示する。

科目名	統計学基礎		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

変化の激しい現代社会においてはデータの迅速かつ的確な分析によって意思決定を行う必要性が高まっている。本科目においては、ビジネス分野で必要とされるデータ解析の基礎知識とExcelによる分析手法を学習する。推測統計の基本である正規分布の特徴、相関回帰、推定と検定の考え方について理解し、これらに関する問題をExcelを利用して解く事ができる技術を身につける。

内容

- 1 データの概念・記述統計と推測統計
- 2 分散と標準偏差
- 3 度数分布と正規分布
- 4 正規分布の基本
- 5 正規分布の応用
- 6 相関関係と散布図
- 7 相関と回帰
- 8 単回帰分析
- 9 相関・回帰の応用
- 10 推定と検定の基礎：帰無仮説とは
- 11 区間推定(1)
- 12 区間推定(2)
- 13 仮説検定(1)
- 14 応用課題
- 15 復習・まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 通常授業における課題提出 (30%)
- 2 . 最終課題の達成度 (70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に使用しない 必要に応じて授業時に配布する

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編(東京大学出版会) 417/T/1

科目名	統計学基礎		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

変化の激しい現代社会においてはデータの迅速かつ的確な分析によって意思決定を行う必要性が高まっている。本科目においては、ビジネス分野で必要とされるデータ解析の基礎知識とExcelによる分析手法を学習する。推測統計の基本である正規分布の特徴、相関回帰、推定と検定の考え方について理解し、これらに関する問題をExcelを利用して解く事ができる技術を身につける。

内容

- 1 データの概念・記述統計と推測統計
- 2 分散と標準偏差
- 3 度数分布と正規分布
- 4 正規分布の基本
- 5 正規分布の応用
- 6 相関関係と散布図
- 7 相関と回帰
- 8 単回帰分析
- 9 相関・回帰の応用
- 10 推定と検定の基礎：帰無仮説とは
- 11 区間推定(1)
- 12 区間推定(2)
- 13 仮説検定(1)
- 14 応用課題
- 15 復習・まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 通常授業における課題提出 (30%)
- 2 . 最終課題の達成度 (70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に使用しない 必要に応じて授業時に配布する

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編(東京大学出版会) 417/T/1

科目名	統計学基礎		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	10クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

変化の激しい現代社会においてはデータの迅速かつ的確な分析によって意思決定を行う必要性が高まっている。本科目においては、ビジネス分野で必要とされるデータ解析の基礎知識とExcelによる分析手法を学習する。推測統計の基本である正規分布の特徴、相関回帰、推定と検定の考え方について理解し、これらに関する問題をExcelを利用して解く事ができる技術を身につける。

内容

- 1 データの概念・記述統計と推測統計
- 2 分散と標準偏差
- 3 度数分布と正規分布
- 4 正規分布の基本
- 5 正規分布の応用
- 6 相関関係と散布図
- 7 相関と回帰
- 8 単回帰分析
- 9 相関・回帰の応用
- 10 推定と検定の基礎：帰無仮説とは
- 11 区間推定(1)
- 12 区間推定(2)
- 13 仮説検定(1)
- 14 応用課題
- 15 復習・まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 通常授業における課題提出 (30%)
- 2 . 最終課題の達成度 (70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に使用しない 必要に応じて授業時に配布する

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編(東京大学出版会) 417/T/1

科目名	経営情報システム		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、「情報システム」の知識を経営的な観点で学習する。また、社会人になって、必要となる「情報化に関するビジネス用語」を身につけることを目標とする。

内容は、企業経営と情報システムの関連性について理解する。経営戦略の立案手法を学習し、経営戦略から情報戦略策定する意義を学習する。情報化に関するビジネス用語を学習する 情報システムを活用するための基礎知識を身につける。よいホームページとは、どういうものかを理解した上で、実際にホームページを作成してみる。

内容

1	ガイダンス
2	経営戦略とは 経営戦略策定手順 経営理念の重要性
3	経営戦略(演習) SWOT分析
4	経営戦略(演習) 事例演習基礎
5	経営戦略(演習) 事例演習応用
6	企業経営と情報システムの関連性
7	まとめ
8	情報戦略とは
9	情報戦略策定
10	事例から学ぶ情報戦略
11	情報化に関するビジネス用語
12	よいホームページとは
13	ホームページ作成(演習)
14	これまでの復習
15	まとめ

評価

途中で理解度を確認し、理解を深めるために、小テストを行う。

評価は、ペーパーテスト(小テスト20%、定期試験30%)、演習時のレポート30%、通常の授業態度10%
3分の2以上出席すること評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 使用せず。

【推薦書】

・『情報管理実務』 情報管理研究会監修 内山 力、三浦 智恵子著 産能大学出版部 336.1/J

【参考図書】

- ・『情報化リーダー養成テキスト』 - 戦略的な情報化推進のために - 独立行政法人情報処理推進機構
- ・『ITコーディネータ実践の手引き』 小山 仁、井上正和著 同友館
- ・『ビジュアルIT活用の実際』 内山 力著 日本経済新聞社
- ・『戦略プロフェッショナル』 三枝 匡著 日本経済新聞社

科目名	会計学基礎		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

我々の周りには様々なビジネスが存在し、そのビジネスを企業等が支えている。本科目は、この企業等のビジネスによる経営活動を記録、計算し、財務諸表を作成する一連の会計の役割とその基本的仕組みを学修する科目である。本科目では、ビジネスマンに必要な基本的財務諸表を読む力、作成できる力を習得する。

科目の概要：

会計は今や英語、ITと並びビジネスマンの必須である。ビジネスマンとしてのアカウントティング・マインドを身につけるため、本科目では実務を意識して多くの事例を取り入れ、会計の基礎を中心に幅広く学修する。

学修目標：

1. 会計の有用性、基本的任務を理解する。
2. 財務諸表の基礎的分析能力を身につける。
3. 基本的財務諸表の作成ができる。

内容

1	会計の役割
2	会計制度の仕組み
3	複式簿記の仕組み
4	財務諸表を読む
5	流動資産
6	固定資産
7	純資産と負債
8	収益と費用
9	キャッシュ・フローを読む
10	財務状態を読む
11	収益性を読む
12	原価構造を読む
13	経営管理への役立ち
14	会計と職業
15	まとめ

評価

学習目標に関するレポート・ミニテスト等(20点)、学習目標に基づく期末試験(60点)、通常の授業態度等(20点)により総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【テキスト（教科書）】 全在紋 朴大栄 谷武幸 編著 『新版 まなびの入門会計学』 中央経済社
その他、適宜、補助レジユメを配布する。
- 【参考図書】 広瀬義州著 『財務会計＜第11版＞』 中央経済社

科目名	会計学基礎		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

我々の周りには様々なビジネスが存在し、そのビジネスを企業等が支えている。本科目は、この企業等のビジネスによる経営活動を記録、計算し、財務諸表を作成する一連の会計の役割とその基本的仕組みを学修する科目である。本科目では、ビジネスマンに必要な基本的財務諸表を読む力、作成できる力を習得する。

科目の概要：

会計は今や英語、ITと並びビジネスマンの必須である。ビジネスマンとしてのアカウンティング・マインドを身につけるため、本科目では実務を意識して多くの事例を取り入れ、会計の基礎を中心に幅広く学修する。

学修目標：

1. 会計の有用性、基本的任務を理解する。
2. 財務諸表の基礎的分析能力を身につける。
3. 基本的財務諸表の作成ができる。

内容

1	会計の役割
2	会計制度の仕組み
3	複式簿記の仕組み
4	財務諸表を読む
5	流動資産
6	固定資産
7	純資産と負債
8	収益と費用
9	キャッシュ・フローを読む
10	財務状態を読む
11	収益性を読む
12	原価構造を読む
13	経営管理への役立ち
14	会計と職業
15	まとめ

評価

学習目標に関するレポート・ミニテスト等(20点)、学習目標に基づく期末試験(60点)、通常の授業態度等(20点)により総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【テキスト（教科書）】 全在紋 朴大栄 谷武幸 編著 『新版 まなびの入門会計学』 中央経済社
その他、適宜、補助レジユメを配布する。
- 【参考図書】 広瀬義州著 『財務会計＜第11版＞』 中央経済社

科目名	簿記演習 1 基礎		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、簿記の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することを目的とした簿記論の入門科目である。具体的には、複式簿記を中心とした基本的商業簿記の原理、原則と記帳方法を簿記一巡の手続きの中で基本問題および練習問題を通して理解、習得する。

講義では「会計学基礎」の知識を基盤として、簿記の原理をファーストステップからスタートし、分かりやすく解説する。基本問題および数多くの練習問題を解くことにより商業簿記の基本原理や記帳、決算等に関する簿記特有の考え方を理解、把握し、ビジネス・パーソンに必要な簿記実務の初歩レベルを習得する。

学修目標としては、以下の3点をあげる。

1. 簿記一巡の全体像を把握する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 財務諸表の理解と基本的財務諸表の作成能力を習得する。

内容

1	資産・負債・純資産と貸借対照表
2	収益・費用と損益計算書
3	取引と取引要素の結合関係
4	勘定と勘定記入法則
5	仕訳と転記
6	仕訳帳と総勘定元帳
7	現金・預金取引の記帳
8	債権・債務取引の記帳
9	商品売買取引と固定資産取得取引の記帳
10	純資産取引の記帳
11	収益・費用取引の記帳
12	決算の意味と決算予備手続き
13	帳簿の締切と繰越試算表
14	損益計算書と貸借対照表の作成
15	総合問題

評価

重要項目に関するミニテスト・レポート等(20%)、通常の授業態度(20%)、学修目標に基づく期末試験等(60%)により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 『ファーストステップ簿記を学ぶ〔第2版〕』 渡部裕巨編著 中央経済社 1,200円

科目名	簿記演習 1 基礎		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、簿記の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することを目的とした簿記論の入門科目である。具体的には、複式簿記を中心とした基本的商業簿記の原理、原則と記帳方法を簿記一巡の手続きの中で基本問題および練習問題を通して理解、習得する。

講義では「会計学基礎」の知識を基盤として、簿記の原理をファーストステップからスタートし、分かりやすく解説する。基本問題および数多くの練習問題を解くことにより商業簿記の基本原理や記帳、決算等に関する簿記特有の考え方を理解、把握し、ビジネス・パーソンに必要な簿記実務の初歩レベルを習得する。

学修目標としては、以下の3点をあげる。

1. 簿記一巡の全体像を把握する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 財務諸表の理解と基本的財務諸表の作成能力を習得する。

内容

1	資産・負債・純資産と貸借対照表
2	収益・費用と損益計算書
3	取引と取引要素の結合関係
4	勘定と勘定記入法則
5	仕訳と転記
6	仕訳帳と総勘定元帳
7	現金・預金取引の記帳
8	債権・債務取引の記帳
9	商品売買取引と固定資産取得取引の記帳
10	純資産取引の記帳
11	収益・費用取引の記帳
12	決算の意味と決算予備手続き
13	帳簿の締切と繰越試算表
14	損益計算書と貸借対照表の作成
15	総合問題

評価

重要項目に関するミニテスト・レポート等(20%)、通常の授業態度(20%)、学修目標に基づく期末試験等(60%)により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 『ファーストステップ簿記を学ぶ〔第2版〕』 渡部裕巨編著 中央経済社 1,200円

科目名	簿記演習 1 応用		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、「簿記入門」に引き続き、会計学の根幹を成す簿記の原理と理論に関する基礎を複式簿記を中心に体系的に理解、学修することをねらいとする科目である。基本的な簿記取引の処理、記帳方法を習得することが求められる科目である。

科目の概要

「会计学基礎」の知識を基盤として、前半は、期中取引における仕訳と帳簿記入を学修し、後半は諸取引の処理と決算を中心に、日商簿記3級の全範囲を学修していく。

学修目標

1. 簿記一巡という全体像を理解する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 会計記録から財務諸表を作成する能力を習得する。

内容

1	簿記の意味・目的・種類と基礎概念
2	取引、勘定と仕訳
3	帳簿記入、決算と財務諸表(その1)
4	現金預金取引
5	商品売買
6	売掛金と買掛金
7	その他債権債務
8	手形
9	有価証券
10	固定資産、資本金と引出金
11	収益と費用、税金
12	帳簿と伝票
13	決算と財務諸表(その2)
14	決算と財務諸表(その2の続き)
15	総合問題

評価

学修目標に関するミニテストと課題レポート等(20点)、学修目標に基づく期末試験(60点)、通常の授業態度等(20点)により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】 『検定簿記講義3級商業簿記[平成25年度版』 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著 中央経済社
その他適宜，補助レジユメを用意する。

【参考図書】 『簿記一般教程』 武田隆二著 中央経済社
その他随時教室にて紹介する。

科目名	簿記演習 1 応用		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、「簿記入門」に引き続き、会計学の根幹を成す簿記の原理と理論に関する基礎を複式簿記を中心に体系的に理解、学修することをねらいとする科目である。基本的な簿記取引の処理、記帳方法を習得することが求められる科目である。

科目の概要

「会计学基礎」の知識を基盤として、前半は、期中取引における仕訳と帳簿記入を学修し、後半は諸取引の処理と決算を中心に、日商簿記3級の全範囲を学修していく。

学修目標

1. 簿記一巡という全体像を理解する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 会計記録から財務諸表を作成する能力を習得する。

内容

1	簿記の意味・目的・種類と基礎概念
2	取引、勘定と仕訳
3	帳簿記入、決算と財務諸表(その1)
4	現金預金取引
5	商品売買
6	売掛金と買掛金
7	その他債権債務
8	手形
9	有価証券
10	固定資産、資本金と引出金
11	収益と費用、税金
12	帳簿と伝票
13	決算と財務諸表(その2)
14	決算と財務諸表(その2の続き)
15	総合問題

評価

学修目標に関するミニテストと課題レポート等(20点)、学修目標に基づく期末試験(60点)、通常の授業態度等(20点)により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】 『検定簿記講義3級商業簿記[平成25年度版』 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著 中央経済社
その他適宜，補助レジユメを用意する。

【参考図書】 『簿記一般教程』 武田隆二著 中央経済社
その他随時教室にて紹介する。

科目名	簿記演習 2 基礎		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、会計学の根幹を成す簿記の商業簿記の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することを目的とした科目である。具体的には、「簿記基礎」に引き続き、より複雑な商業活動の記帳方法と決算技法について、幅広く日商3級の範囲を学修するとともに、数多くの練習問題を解くことにより簿記の計算レベルを上げる。

講義では、基本問題のみならず、演習問題、応用問題にまで発展させ、商業簿記の理解をさらに深めていく予定である。また、手形・固定資産の処理、精算表・財務諸表の作成等、重要なテーマについては問題数を増やし、理解を確実なものにしていく。したがって講義の最終段階では、受講者の日商簿記検定3級の確実な合格レベルを目指す。

学修目標としては、以下の3点をあげる。

1. 企業取引の内容を理解し、会計処理方法を確実に習得する。
2. 発生主義や実現主義、費用収益の対応等、重要な会計理論を理解する。
3. 財務諸表全体の意味を理解し、応用論点にも対応できる。

内容

1	簿記の基本原理
2	取引、仕訳
3	勘定記入、帳簿
4	現金・現金過不足
5	当座預金・当座借越
6	小口現金、商品売買
7	商品有高帳、売掛金・買掛金
8	その他債権債務、手形(その1)
9	手形(その2)、有価証券、固定資産(その1)
10	固定資産(その2)、資本金と引出金
11	収益と費用、税金、伝票
12	試算表の作成と決算整理手続
13	元帳の締切と財務諸表の作成(その1)
14	元帳の締切と財務諸表の作成(その2)
15	総合問題

評価

ミニテスト・課題レポート等(20%)、通常の授業態度(20%)、学修目標に基づく期末試験(60%)により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著（中央経済社）700円

【推薦書】 『簿記一般教程』 武田隆二著（中央経済社）

科目名	簿記演習 2 基礎		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、会計学の根幹を成す簿記の商業簿記の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することを目的とした科目である。具体的には、「簿記基礎」に引き続き、より複雑な商業活動の記帳方法と決算技法について、幅広く日商3級の範囲を学修するとともに、数多くの練習問題を解くことにより簿記の計算レベルを上げる。

講義では、基本問題のみならず、演習問題、応用問題にまで発展させ、商業簿記の理解をさらに深めていく予定である。また、手形・固定資産の処理、精算表・財務諸表の作成等、重要なテーマについては問題数を増やし、理解を確実なものにしていく。したがって講義の最終段階では、受講者の日商簿記検定3級の確実な合格レベルを目指す。

学修目標としては、以下の3点をあげる。

1. 企業取引の内容を理解し、会計処理方法を確実に習得する。
2. 発生主義や実現主義、費用収益の対応等、重要な会計理論を理解する。
3. 財務諸表全体の意味を理解し、応用論点にも対応できる。

内容

1	簿記の基本原理
2	取引、仕訳
3	勘定記入、帳簿
4	現金・現金過不足
5	当座預金・当座借越
6	小口現金、商品売買
7	商品有高帳、売掛金・買掛金
8	その他債権債務、手形(その1)
9	手形(その2)、有価証券、固定資産(その1)
10	固定資産(その2)、資本金と引出金
11	収益と費用、税金、伝票
12	試算表の作成と決算整理手続
13	元帳の締切と財務諸表の作成(その1)
14	元帳の締切と財務諸表の作成(その2)
15	総合問題

評価

ミニテスト・課題レポート等(20%)、通常の授業態度(20%)、学修目標に基づく期末試験(60%)により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著（中央経済社）700円

【推薦書】 『簿記一般教程』 武田隆二著（中央経済社）

科目名	簿記演習 2 応用		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、会計学の根幹を成す簿記の商業簿記の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することを目的とした科目である。具体的には、「簿記基礎」に引き続き、より複雑な商業活動の記帳方法と決算技法について、幅広く日商3級の範囲を学修するとともに、数多くの練習問題を解くことにより簿記の計算レベルを上げる。

講義では、基本問題のみならず、演習問題、応用問題にまで発展させ、商業簿記の理解をさらに深めていく予定である。また、手形・固定資産の処理、精算表・財務諸表の作成等、重要なテーマについては問題数を増やし、理解を確実なものにしていく。したがって講義の最終段階では、受講者の日商簿記検定3級の確実な合格レベルを目指す。

学修目標としては、以下の3点をあげる。

1. 企業取引の内容を理解し、会計処理方法を確実に習得する。
2. 発生主義や実現主義、費用収益の対応等、重要な会計理論を理解する。
3. 財務諸表全体の意味を理解し、応用論点にも対応できる。

内容

1	簿記の基本原理
2	取引、仕訳
3	勘定記入、帳簿
4	現金・現金過不足
5	当座預金・当座借越
6	小口現金、商品売買
7	商品有高帳、売掛金・買掛金
8	その他債権債務、手形(その1)
9	手形(その2)、有価証券、固定資産(その1)
10	固定資産(その2)、資本金と引出金
11	収益と費用、税金、伝票
12	試算表の作成と決算整理手続
13	元帳の締切と財務諸表の作成(その1)
14	元帳の締切と財務諸表の作成(その2)
15	総合問題

評価

ミニテスト・課題レポート等(20%)、通常の授業態度(20%)、学修目標に基づく期末試験(60%)により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著（中央経済社）700円

【推薦書】 『簿記一般教程』 武田隆二著（中央経済社）

科目名	インターネットビジネス		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必修科目である。

科目の概要

インターネット上での様々な経済取引が拡大している。そこで、本講義では、インターネット上での取引に関する問題を幅広く取り上げることとする。インターネットの仕組みや歴史からスタートさせ、インフラ系の事業からインターネット上のショッピング、そして企業間取引までの問題を幅広く扱う。

また、インターネットを巡る諸問題についても扱う。

学修目標

インターネットに関わるビジネスモデルについて理解する。

内容

1. インターネットの歴史と仕組み
2. 情報通信産業の規制緩和
3. 認証システムと暗号化
4. ユビキタス社会
5. 6. SNSと無料通話アプリケーション
7. 8. 検索サイト
9. インターネットのショッピングサイト
10. 情報公開とインターネット
11. 動画配信
12. 通信と放送の融合
13. 携帯電話、スマートフォン、タブレット端末
14. コンテンツ産業
15. まとめ

評価

毎回の課題(30%)、最終のレポート(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	情報倫理		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人々のメディアに対する関心はマスコミ4媒体(新聞、雑誌、ラジオ、テレビ)から驚異的な普及でその影響力を伸ばすインターネットに移り、仕事や研究、私生活を取り巻くメディア環境は一変した。

しかし「情報の重要度」が高まっているにもかかわらず、メディアが流す/提供する個々の情報を見てみると、まさに玉石混交である。現代を生きる我々は、そうした混沌とした情報社会の中で真に必要とする情報を選び、間違いやトラブルからいかに自らを守るかが問われている。

授業では、メディア(企業)だけでなく、我々個人にも情報発信が可能になった現実を踏まえ、情報の発信から受信と(再)利用の過程で、企業も個人も守り、気をつけなければならないルール=情報倫理について考える。

内容

授業計画

- 1) 現代社会と情報
- 2) 情報社会の特徴と情報の信ぴょう性
- 3) 情報公開と個人情報の保護
- 4) 監視カメラと人権/プライバシー *番組視聴
- 5) インターネットと人権
- 6) 表現の自由と制約
- 7) 名誉毀損/プライバシーの侵害と保護
- 8) テレビ番組基準
- 9) 報道被害と救済
- 10) 報道番組とネット *番組視聴
- 11) 匿名発表&匿名報道と無責任社会
- 12) 少年犯罪&精神障害者事件と報道
- 13) 情報源の秘匿
- 14) 編集権と期待権
- 15) まとめ

評価

期末レポート60点+ミニレポート40点=100点 60点以上が合格

ミニレポートとは、毎回の授業終了前の約10分で受講生の理解度を把握するために行う一種のリアクションペーパーである。受講生は、教員の講義内容に対する感想、自分の意見(考え)、疑問点、質問などを書く。教員は翌週の授業の冒頭で、再説明をしたり質問に答えたりして、可能な範囲で受講生との「交流」を図っていく。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

関連資料は毎回の授業時に配布する。参考図書は随時紹介する。

科目名	ビジネスと女性		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

かつては女性に門戸を閉ざしていたようなビジネスの場であっても、これから急速に活躍の機会が開けてくる。昨今の産業構造や社会構造の大変化を反映して、女性にもビジネス社会を構成する同等のメンバーとして大きな期待が寄せられている。本講座は、ビジネス実践の原理原則について学ぶことを通して、ビジネス社会における人間の生き方を理解する。また、ビジネスの場において、女性の持つ可能性と直面する課題についての検討を行う。就職や就業等、これからビジネスと関わりを持つ女子学生に対し、各自のキャリア構築に際しての示唆を与えることを目的とする。

授業では、人生において重要な意味を持つ「お金」というものの意味を考え、次に、ビジネスの実践とは具体的にいかなることか、また、就職や起業を通してビジネスの場で自己の可能性をいかに発見していくのかについて学ぶ。

「ビジネスと女性」を履修することにより、経営、情報、会計といった分野における学習への内面的動機の形成を促すと共に、さらに、ビジネスの実践的研究を踏まえ、経営に関する基幹・関連科目の理解が容易になるよう配慮する。

内容

1	「働く」ということを考える
2	お金持ちの考え方や生活態度
3	「お金」と仕事
4	「お金」とライフ・ステージ
5	「お金」のマネジメント
6	投資入門
7	新しい「お金」の考え方
8	ビジネスポイント - ビジネスが生まれる条件
9	ビジネス・ポイントの構成要素
10	ビジネスモデル - ビジネスの構成要素
11	ビジネス・イノベーション
12	起業 - ビジネスの企画開発
13	起業のケース・スタディ
14	女性とビジネス
15	まとめ

評価

本講座における評価方法は、期末テスト(50点)授業態度(10点)小テスト及び小レポート提出(40点)によるものとし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業において適時講義に関連するレジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	ビジネスと女性		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

かつては女性に門戸を閉ざしていたようなビジネスの場であっても、これから急速に活躍の機会が開けてくる。昨今の産業構造や社会構造の大変化を反映して、女性にもビジネス社会を構成する同等のメンバーとして大きな期待が寄せられている。本講座は、ビジネス実践の原理原則について学ぶことを通して、ビジネス社会における人間の生き方を理解する。また、ビジネスの場において、女性の持つ可能性と直面する課題についての検討を行う。就職や就業等、これからビジネスと関わりを持つ女子学生に対し、各自のキャリア構築に際しての示唆を与えることを目的とする。

授業では、人生において重要な意味を持つ「お金」というものの意味を考え、次に、ビジネスの実践とは具体的にいかなることか、また、就職や起業を通してビジネスの場で自己の可能性をいかに発見していくのかについて学ぶ。

「ビジネスと女性」を履修することにより、経営、情報、会計といった分野における学習への内面的動機の形成を促すと共に、さらに、ビジネスの実践的研究を踏まえ、経営に関する基幹・関連科目の理解が容易になるよう配慮する。

内容

1	「働く」ということを考える
2	お金持ちの考え方や生活態度
3	「お金」と仕事
4	「お金」とライフ・ステージ
5	「お金」のマネジメント
6	投資入門
7	新しい「お金」の考え方
8	ビジネスポイント - ビジネスが生まれる条件
9	ビジネス・ポイントの構成要素
10	ビジネスモデル - ビジネスの構成要素
11	ビジネス・イノベーション
12	起業 - ビジネスの企画開発
13	起業のケース・スタディ
14	女性とビジネス
15	まとめ

評価

本講座における評価方法は、期末テスト(50点)授業態度(10点)小テスト及び小レポート提出(40点)によるものとし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業において適時講義に関連するレジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	企業戦略論		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

企業は、自らが生産した商品を、市場において消費者や顧客に販売し利益を得ることによって、事業活動を継続する。しかし、市場において競争相手に打ち勝たなければ、顧客を失い販売金額が減少し、損失が発生する。そして、そのような赤字経営が続けば、企業は倒産し消滅せざるを得ない。このように、企業は、強いものが生き残り弱いものが消滅するという、市場の厳しい生存競争にさらされている。資本主義経済においては、このような淘汰のプロセスが、経済にダイナミズムをもたらし、経済の活性化を促している。

戦略は戦争における敵に勝つための総合的な方法論・技術論である。企業戦略は、市場における競争を企業間戦争と捉え、企業がいかに競争相手と戦いいかに勝ち残るかという技術論であり方法論である。本講座では、経営学の基礎的学習からさらに一歩進め、管理から経営へ、経営から戦略へと続いてきた経営理論の流れをたどることにより現代の戦略経営についてその背景を理解すると同時に、いろいろな戦略論についてその内容と意義を学ぶ。

内容

1	戦略論の基礎
2	伝統的管理論：テラー、ファヨール、ウェーバー
3	ホーソン実験：メイヨー、レリスバーガー
4	動機づけ理論：マズロー、アージェリス、マクレガー、ハズバーク
5	会社での仕事
6	リーダーシップ論：資質論、形態論、状況適合理論
7	バーナードの組織論
8	サイモンの意思決定論
9	意思決定論の展開：高橋
10	戦略論の系譜：チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーク、奥村
11	成長戦略の基礎概念
12	競争戦略の基礎概念
13	インフラ戦略の基礎概念
14	ケース・スタディ
15	まとめ

評価

本講座における評価方法は、期末テスト(50点)、授業態度(10点)、小テスト及び小レポート提出(40点)によるものとし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

講義において関連するレジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	原価計算論		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

原価計算制度の目的は、真実の原価を確定して財務諸表の作成に役立て、原価を分析し、これを経営管理者に提供し、業務計画および原価管理に役立てることである。これまでの商業簿記の学習においては、企業は完成品を仕入れ、販売することを前提にしてきたが、工業簿記においては、商品を自ら製造する企業、いわゆる製造業が前提となる。そこでは、製品等の資産勘定を財務諸表に記載するために、適切な製造原価の計算が必要不可欠となる。また、企業経営においては、経営者が将来の企業のあり方を計画し、その成果が期待どおりに進んでいるかを管理するための情報が必要となり、企業が製造する製品原価の計算を中心とした情報が活用される。本科目では特に、前者の製品原価を具体的に計算する手法である原価計算に焦点を当てていく。

講義では、財貨又は用役の消費を貨幣価値的に表わしたものである「原価」の要素について学修し(講義1~5)、その上で、最も基本的な製造計算方法である「個別原価計算」を基礎として原価計算制度の概要について学修していく(講義6,7)。後半では、より複雑な原価計算の形態である「部門別原価計算(講義8,9)」や「総合原価計算(講義10~14)」を具体的に学修していく。

学修目標は次の通りである。1.簿記会計の知識を原価計算と融合させ、相互に関連付けて理解する。2.原価の適切な分類と集計する能力を習得する。3.様々な製造形態に適した原価計算制度を理解する。4.計算された原価を差異分析等、内部管理目的に適用できる能力を習得する。

内容

1	工業簿記の基礎
2	工業簿記の勘定連絡図,材料費 (材料費の計算)
3	材料費 (予定価格,減耗)
4	労務費
5	経費
6	個別原価計算 (製造間接費の予定配賦)
7	個別原価計算 (原価差異分析)
8	部門別原価計算 (製造部門と補助部門)
9	部門別原価計算 (製造部門費の予定配賦)
10	総合原価計算 (総合原価計算の概要)
11	総合原価計算 (総合原価計算,仕掛品)
12	総合原価計算 (減損費の計算)
13	総合原価計算 (総合原価計算総合問題)
14	工程別原価計算
15	まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート（20点）と、学修目標に基づく筆記形式の試験（70点）、通常の授業態度（10点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト(教科書)】TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記2級工業簿記 Ver.5.0』T A C 出版，T A C簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記2級工業簿記 Ver.5.0』T A C 出版

その他適宜，補助レジユメを用意する。

【参考図書】随時教室で紹介する。

科目名	簿記演習 3		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、「簿記初級」の知識に引き続き、会計学の根幹を成す簿記の原理と理論を体系的により深く学修することを目的に、企業のさらに複雑な商業活動の記帳方法と決算技法を習得する科目である。

科目の概要

具体的には、日商簿記検定試験 2 級の商業簿記の範囲に沿って、会計に関する深い考察力と応用力を養っていく。検定試験に必要な問題料確保のため、講義ではテキストの問題の他、プリント配布による練習問題も予定している。

学修目標

複雑な企業取引の内容を把握し、会計処理方法を十分に理解する。また企業取引の複合的な応用論点への対応力も習得する。講義終了時点では、日商簿記検定商業簿記 2 級の合格レベルを目標とする。

内容

1	簿記一巡の手続
2	現預金取引
3	有価証券取引
4	債権・債務取、手形取引(その1)
5	手形取引(その2)、引当金取引
6	商品売買取引
7	特殊商品売買取引(その1)
8	特殊商品売買取引(その2)
9	固定資産取引、損益取引
10	株式会社会計(その1)
11	株式会社会計(その2)
12	決算(その1)
13	決算(その2)
14	本支店会計
15	総合問題

評価

ミニテスト・課題レポート等(20%)、通常の授業態度(20%)、学修目標に基づく期末試験(60%)により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 『検定簿記講義2級商業簿記[平成25年度版]』 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著 (中央経済社) 700円

【推薦書】 『簿記一般教程』 武田隆二著（中央経済社）

科目名	演習		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

本科目は、法律をテーマとして取り扱い、各トピックを考察・検討するとともに調査方法を学びます。4年の卒業研究へむけての過程としての位置付けとなります。

科目の概要：

金融やその他企業の活動にかかわるビジネス法を、生活者・消費者的視点から、ビジネスパーソンの視点から考察します。契約を中心として私法の分野からのアプローチをしてゆきます。文献購読、参加者による報告、ディスカッションを通じて、法律とその背景や現在の社会をめぐる状況からその機能・限界を踏まえて展望について研究します。

科目の目的：

広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。

内容

日常生活でも仕事をしていく上でも重要な「契約」や「紛争解決制度」等を素材に研究を進めます。指定の文献を事前に必ず読んでおくことが全員に要求されます。担当レポーターは制度・事案を整理してレジюмеを作成し報告します。それを踏まえて参加者による積極的な質疑応答・ディスカッションを通じて、理解を深めます。後期は、通常の報告と同時並行して卒業研究のテーマ選び、卒業研究のテーマに関する研究・調査の準備を行ないます。卒業研究の準備として、選択したテーマにつき、後期終了時まで、各自ゼミ・レポートを作成します。

評価

授業中の発表(30%)・報告・議論への参加態度(30%)、報告レジюме作成・レポート(40%)により評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。また、適宜資料の配布をします。

科目名	演習		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必修科目である。

科目の概要

1、2年次での学習を踏まえ、3年次よりゼミでの学習を進めていく。卒業論文作成のための基礎を学習する。

学修目標

ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を高めることと、経済学や経営学に対する専門的知識、思考能力を高めしていくことを目標にする。

内容

日本経済や経営に関する文献を読み、基礎的な知識の確認と論点について把握する。その際、1章ごとに数人で分担し報告する。その過程でレジュメの作り方、報告の方法などを習得させる。テキストは学生と相談して決める。その後、各自自らのテーマを設定し、レポートを作成していく。その際、テーマの設定の方法、資料の集め方、アウトラインの作り方などを指導していく。

評価

毎回の授業でのディスカッション(50%)、発表内容(50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	演習		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

経営に関する領域において、それぞれゼミ履修生の自主性を重視し、その興味に答えて内容を組み立てる。

マーケティング・会計・戦略を三本柱として、経営に関する諸課題を抽出し、それらに関し検討を加える。上記内容に関し、3年次は主として基本的概念に関する学習を行い、4年次の卒業研究に関する各自のテーマ選択の準備を行う。また、演習では経営の実践を学ぶために、企業見学や企業の実務担当者を招いてお話を伺う機会を持つ。

内容

前期では、基本テキストを使用し、各自分担したテーマに応じて内容を調べ、発表し、議論する。後期には、基本テキストの学習と並列して、各自の関心に基づいて関連する文献の調査等を行い、みんなで報告しあい卒業研究のテーマを絞っていく。

評価

評価方法は、ゼミ参画状況(70点)、課題提出(30点)をもとに総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介。

科目名	演習		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報化が進み、変化の激しい現代の社会において必要とされる能力とはどのようなものであろうか。従来の大量生産システムに代表される社会においては、指示されたことをそのとおりにできることや、的確な事務処理能力などを備えていることが好ましいとされていた。しかし、今では社会の変化が著しく、しかも人々の価値観や好みは多様を極めている。

このような現代社会においては、自分の考えや価値観を認識することが必要である。さらにどのような変化にも適応できるためには、独力で新しい物事を学んでいけるだけの強い意志力と柔軟な思考力が求められている。

本科目では未知の事態に直面した場合に発揮されるべき認識力、分析力、表現力等を、調査の企画とデータ分析を通して身につけることを目標としている。

演習 ではデータ分析手法を中心に学習し、演習 では、ビジネス、マーケティングに関する学習を通して卒業研究のテーマを確定する。

内容

- 1 ビジネスデータの捉え方
- 2 SPSSによるデータ解析(1)データの扱い
- 3 SPSSによるデータ解析(2)時系列データ
- 4 SPSSによるデータ解析(3)相関・回帰
- 5 SPSSによるデータ解析(4)平均の差の検定
- 6 SPSSによるデータ解析(5)分散分析
- 7 SPSSによるデータ解析(6)因子分析
- 8 インターネット上のデータの扱い
- 9 調査手法(1)
- 10 調査手法(2)
- 11 レポート作成手法
- 12 プレゼン手法
- 13 課題作成(1)
- 14 課題作成(2)
- 15 課題発表

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 授業に対する意欲と態度 (30%)
- 2 . 課題発表の達成度 (70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『SPSS による統計処理の手順』石村貞夫著(東京書籍)

【推薦書】『すぐわかるSPSS によるアンケートの調査・集計・解析』内田治著(東京図書)417/U

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必須科目。

科目の概要

学生の殆どが、何らかの形で、本学を卒業後、企業との関連で働く事になる。3年生の演習では、前期は企業について、基本的な事柄、しくみを実際のケースを論じながら、徹底的なアクティブラーニング方式による理解を目指す。又、企業の就活で必要となる、論じる、書くという訓練も合わせて行う。

学修目標

会社、企業というものの基本的な事柄、その運営の為の理論の基礎について理解する事を目指す。

内容

会社、企業とは何か、企業はどうやって収益を上げていくのか、企業が生き残っていくには何が必要か、企業の仕組みはどうなっているのかという、企業の実際についての理解を目指す。授業は、講義方式で無く、学生との或いは学生間の討論形式で議論を重ねて、学生一人一人が理解を深める参加型で進める。更に、学外授業として、企業訪問等を実施、実際の職場の空気を肌で感じて貰う。又、資料についても、一部実際に企業で使用している材料、簡単な英文のものも使用する。

評価

ゼミへの取り組み姿勢(50%) レポート内容(50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は特に定めない。但し、受講者は、4月の授業の開始までに、「もしドラ」を一読しておく事。企業を議論する上で、解りやすく参考になる。

科目名	演習		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、4年次の卒業研究、に向けてのファーストステップとして、簿記論等会計学関連科目の基礎知識を習得し、卒業研究等に関する基礎能力を育成する科目である。

科目の概要

前半は、簿記、会計、税務等、実務に直結する一般的な会計関連科目の幅広い基礎知識の習得を目指す。必要な会計関連科目の基礎知識習得後、各自与えられた課題を分析・検討して発表を行い、積極性、分析力、判断力等の育成の他、表現力等プレゼンテーションスキルの上達も試みる。後半は、ゼミの進捗状況により、企業の財務諸表分析、問題点の把握、ソリューションを導き出す能力の育成等、さらなるレベルアップも検討する。また希望者が多ければ日商簿記検定試験等の資格試験対策や模擬面接等の就職活動対策等も考慮する。

学修目標

1. 会計学、簿記論、税法等の科目について基礎知識を習得する。
2. 財務諸表を読み、企業の経営状況を把握する力を身につける。
3. 自ら調査・分析・研究し、卒業研究としてまとめることができる力を養成する。
4. 可能な範囲内での資格取得にチャレンジする。

内容

1	オリエンテーション
2	各自学修計画の策定
3	簿記論・会計学関連の基礎知識把握
4	簿記論・会計学関連の基礎知識把握
5	事例研究とまとめ方1
6	事例研究とまとめ方2
7	課題設定と発表方法
8	課題発表、資格試験対策
9	課題発表、資格試験対策
10	課題発表、会計学の発展的研究、資格試験対策
11	課題発表、会計学の発展的研究、資格試験対策
12	課題発表、資格試験対策
13	課題発表、資格試験対策
14	課題発表、資格試験対策
15	まとめ

評価

課題発表（30%）、レポート作成（30%）、ディスカッション等ゼミ参画態度（40%）により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト等については、ゼミの進捗状況に応じ、授業内で指示する。また、必要に応じて適宜プリントを配布する。

科目名	演習		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

本科目は、法律をテーマとして取り扱い、各トピックを考察・検討するとともに調査方法を学びます。4年の卒業研究へむけての過程としての位置付けとなります。

科目の概要：

金融やその他企業の活動にかかわるビジネス法を、生活者・消費者的視点から、ビジネスパーソンの視点から考察します。契約を中心として私法の分野からのアプローチをしてゆきます。文献購読、参加者による報告、ディスカッションを通じて、法律とその背景や現在の社会をめぐる状況からその機能・限界を踏まえて展望について研究します。

科目の目的：

広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。

内容

日常生活でも仕事をしていく上でも重要な「契約」や「紛争解決制度」等を素材に研究を進めます。指定の文献を事前に必ず読んでいることが全員に要求されます。担当レポーターは制度・事案を整理してレジюмеを作成し報告します。それを踏まえて参加者による積極的な質疑応答・ディスカッションを通じて、理解を深めます。後期は、通常の報告と同時並行して卒業研究のテーマ選び、卒業研究のテーマに関する研究・調査の準備を行ないます。卒業研究の準備として、選択したテーマにつき、後期終了時まで、各自ゼミ・レポートを作成します。

評価

授業中の発表(30%)・報告・議論への参加態度(30%)、報告レジюме作成・レポート(40%)により評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。また、適宜資料の配布をします。

科目名	演習		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必修科目である。

科目の概要

演習 での学習を踏まえ、卒業論文執筆のための準備に取り掛かる。

学修目標

卒業論文作成のための方法を身につける。

内容

各自で卒論のテーマを決め、そのテーマに応じた資料収集、文献リストの作成、テーマの概要作成を段階を踏んで行っていく。そして、途中で演習の中で発表しディスカッションしていくことにより、卒論の完成度を高めていく。

評価

卒論作成に向けた準備(30%)、最終の発表(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	演習		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

経営に関する領域において、それぞれゼミ履修生の自主性を重視し、その興味に答えて内容を組み立てる。

マーケティング・会計・戦略を三本柱として、経営に関する諸課題を抽出し、それらに関し検討を加える。上記内容に関し、3年次は主として基本的概念に関する学習を行い、4年次の卒業研究に関する各自のテーマ選択の準備を行う。また、演習では経営の実践を学ぶために、企業見学や企業の実務担当者を招いてお話を伺う機会を持つ。

内容

後期には、前期に引き続き、基本テキストを使用し、各自分担したテーマに応じて内容を調べ、発表し、議論する。後期には、基本テキストの学習と並列して、各自の関心に基づいて関連する文献の調査等を行い、みんなで報告しあい卒業研究のテーマを絞っていくと同時に、マーケティングや経営に関する研究テーマを選択し、グループによる調査研究を行う。

評価

評価方法は、グループ研究の成果(40点)、ゼミ参画状況(50点)、課題提出(10点)をもとに総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介。

科目名	演習		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報化が進み、変化の激しい現代の社会において必要とされる能力とはどのようなものであろうか。従来の大量生産システムに代表される社会においては、指示されたことをそのとおりにできることや、的確な事務処理能力などを備えていることが好ましいとされていた。しかし、今では社会の変化が著しく、しかも人々の価値観や好みは多様を極めている。

このような現代社会においては、自分の考えや価値観を認識することが必要である。さらにどのような変化にも適応できるためには、独力で新しい物事を学んでいけるだけの強い意志力と柔軟な思考力が求められている。

本科目では未知の事態に直面した場合に発揮されるべき認識力、分析力、表現力等を、調査の企画とデータ分析を通して身につけることを目標としている。

演習 ではデータ分析手法を中心に学習し、演習 では、ビジネス、マーケティングに関する学習を通して卒業研究のテーマを確定する。

内容

- 1 マーケティングの基礎(概説)
- 2 発表分担とプレゼン・レジュメ作成技法
- 3 分担発表(1)市場選択 事業機会と事業領域
- 4 分担発表(2)市場選択 標的市場
- 5 分担発表(3)市場分析 市場データ・消費者行動分析
- 6 分担発表(4)市場分析 競争・流通分析
- 7 分担発表(5)市場対応 製品・価格対応
- 8 分担発表(6)市場対応 コミュニケーション対応
- 9 分担発表(7)市場対応 流通チャンネル対応
- 10 分担発表(8)市場コミュニケーション サービスマーケティング
- 11 分担発表(8)市場コミュニケーション ソーシャルマーケティング
- 12 卒論テーマ作成のためのワーク
- 13 卒論テーマ作成のためのワーク
- 14 卒論テーマと研究方法
- 15 まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 授業に対する意欲と態度 (30%)
- 2 . 課題発表の達成度 (70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『マーケティング戦略』和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦著(有斐閣)

【推薦書】『すぐわかるSPSS によるアンケートの調査・集計・解析』内田治著(東京図書)417/U

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必須科目。

科目の概要

前期演習で、修得した企業の基本的な事柄、しくみに関する知識を基に、企業の展開策、生き残り策、必要な人材像について演習を通じて理解を深める。更に、並行して開かれる総合講座”変貌する産業界への探訪”を題材に、その内容について、グループディスカッションを行い、更に、それを論文形式でまとめるという演習を毎週実施する。又、学生が就職先として選択する場合の企業の着目点等についても理解を深めていく。そして、12月より迎える就職活動に備える。

学修目標

企業というものの基本的理解と、学生が就職先を選択していく上での重要判断項目の修得。

内容

前期演習に続いて、会社、企業が生き残っていくには何が必要か、企業が求める人材とはどういう人間か、どのような能力を持った人材かについて理解を深める。そして、逆に、学生が就職先を決めるとき、重要な判断要素は何か？3年生の後半から始まる就職活動に向けて、学生に企業の実際と仕組みを理解して貰う事を目指す。尚、授業は、最近の企業の就職試験で一般的になっている、グループ討論の形を習熟させるために、基本的には、学生間の討論形式で実施する。更に、後期は積極的に自分の主張を分かりやすく簡潔に記述する自宅学習を毎週も課し、全体として話す、討論してまとめる、内容を明確に書き表すという演習を徹底的に行う。

評価

ゼミへの取り組み姿勢(50%)レポート内容(50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

演習の進展に応じて適宜指示する。

科目名	演習		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習 は、演習 に引き続き、企業の財務諸表分析や企業経営の考え方を会計、税務の両面から幅広く検討し、課題発表等を通じて考察力、分析力、さらには問題解決能力等を習得する科目である。また、演習 は、翌年の卒業研究へのステップとして位置付け、テーマ設定、研究計画等、卒業研究の準備も行う。

演習 に引き続き、会計学、税制の基礎力の確認を行い、会社の財務諸表分析や企業経営等を検討するが、可能であればさらに国際会計や国際税務戦略、よりレベルの高い資格試験対策等への発展的拡充を試みる。課題発表では、パワーポイント等のソフトウェアを利用して各自、選択可能なテーマの中から発表を行う。課題は会計学、税制の範囲に限らず、幅広い分野からのテーマ設定が可能である。課題発表では、プレゼンテーションやディスカッションを通してスピーディな資料の作成能力や発言力、ソフトウェアを利用した表現力、効果的な発表力等を身につける。

学修目標としては以下の4点をあげる。

1. 財務諸表の基礎的分析力、問題点の把握とその解決能力の習得。
2. 会計学、税制の基礎知識把握と発展的拡充。
3. 効果的なプレゼンテーション・スキルの向上。
4. 研究に関する基礎能力の育成。

内容

1	オリエンテーション、各自学修計画の策定
2	カレントトピックスと会計・税務の基礎力確認
3	課題発表、資格試験対策等
4	課題発表、資格試験対策等
5	課題発表、資格試験対策、国際会計基準の基礎等
6	課題発表、資格試験対策、IFRS等
7	課題発表、資格試験対策、IFRS等
8	課題発表、資格試験対策、国際税務の基礎等
9	課題発表、資格試験対策、国際税務(タックスヘイブン税制)等
10	課題発表、資格試験対策、国際税務(過少資本税制)等
11	課題発表、資格試験対策、国際税務(移転価格税制)等
12	課題発表、資格試験対策、就活対策等
13	課題発表、資格試験対策、就活対策等
14	課題発表、資格試験対策、卒業研究準備等
15	まとめ

評価

課題発表(30%)、レポート作成(30%)、ディスカッション等ゼミナール参画態度(40%)により総合的に判断し

て評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト等については、ゼミの進捗状況に応じ授業内で指示する。また必要に応じ適宜プリントを配布する。

科目名	経営のためのデータ解析基礎		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目では、ビジネスデータの分析に必要な統計解析手法を学ぶ。「仮説検定」ならびに「分散分析」の手法について、Excel ならびにSPSSを用いた演習を通して学習する。

マーケティングなどのためのアンケート調査の結果について、応用的なデータ分析ができる能力を身につけることを目標としている。

内容

1. アンケートデータの特徴
2. 二乗検定(1) 適合度の検定
3. 二乗検定(2) 独立性の検定
4. 二乗検定の応用問題・SPSSの利用法
5. 平均の差の検定について・t分布とF分布
6. 2群の母平均の差の検定(1) 等分散を仮定したt検定
7. 2群の母平均の差の検定(2) 分散が異なる場合を仮定したt検定
8. 対応のあるデータの差のt検定
9. t検定の応用問題
10. 分散分析(一元配置)
11. 分散分析(繰り返しのない二元配置)
12. 分散分析の応用問題
13. 総合問題(1)
14. 総合問題(2)
15. まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

1. 授業における課題提出(30%)
2. 最終課題の達成度(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に使用しない 必要に応じて授業時に資料を配布

科目名	経営のためのデータ解析基礎		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目では、ビジネスデータの分析に必要な統計解析手法を学ぶ。「仮説検定」ならびに「分散分析」の手法について、Excel ならびにSPSSを用いた演習を通して学習する。

マーケティングなどのためのアンケート調査の結果について、応用的なデータ分析ができる能力を身につけることを目標としている。

内容

1. アンケートデータの特徴
2. 二乗検定(1) 適合度の検定
3. 二乗検定(2) 独立性の検定
4. 二乗検定の応用問題・SPSSの利用法
5. 平均の差の検定について・t分布とF分布
6. 2群の母平均の差の検定(1) 等分散を仮定したt検定
7. 2群の母平均の差の検定(2) 分散が異なる場合を仮定したt検定
8. 対応のあるデータの差のt検定
9. t検定の応用問題
10. 分散分析(一元配置)
11. 分散分析(繰り返しのない二元配置)
12. 分散分析の応用問題
13. 総合問題(1)
14. 総合問題(2)
15. まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

1. 授業における課題提出(30%)
2. 最終課題の達成度(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に使用しない 必要に応じて授業時に資料を配布

科目名	経営のためのデータ解析応用		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会調査には統計処理を前提としてデータを扱う量的調査と、事例データを社会的文脈に即して分析する質的調査の2つのタイプがある。この授業では、ドキュメント分析、インタビュー調査、非参与観察、参与観察といった質的調査の技法を学ぶ。それぞれの単元毎に課題提出があり(自分史の分析、インタビュー調査の設計、タウンウォッチングの設計、参与観察の設計)、学期末には、実際にいずれかの方法で質的調査を実施した結果をレポートにして提出する。

内容

1	質的調査の基本的性格
2	ドキュメント分析1: 公的記録の分析
3	ドキュメント分析2: 私的記録の分析1
4	ドキュメント分析3: 私的記録の分析2
5	インタビュー調査1: インタビューの種類
6	インタビュー調査2: インタビュー調査の事例1
7	インタビュー調査3: インタビュー調査の事例2
8	インタビュー調査4: インタビュー調査の設計
9	非参与観察1: 非参与観察の事例
10	非参与観察2: 非参与観察の設計
11	参与観察1: 参与観察の事例
12	参与観察2: 参与観察の技法
13	参与観察3: 参与観察の設計
14	質的調査と倫理
15	総括

評価

授業時の課題提出(40%)と学期末のレポート(60%)で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】

桜井 厚『インタビューの社会学』せりか書房、2002年。

W.I.トマス/F.ズナニエツキ『生活史の社会学』桜井 厚訳、御茶の水書房、1983年。

中野 卓『口述の生活史』御茶の水書房、1977年。

W.F.ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』寺谷弘士訳、垣内出版、1979年。

佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992年。

科目名	経営のためのデータ解析応用		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会調査には統計処理を前提としてデータを扱う量的調査と、事例データを社会的文脈に即して分析する質的調査の2つのタイプがある。この授業では、ドキュメント分析、インタビュー調査、非参与観察、参与観察といった質的調査の技法を学ぶ。それぞれの単元毎に課題提出があり(自分史の分析、インタビュー調査の設計、タウンウォッチングの設計、参与観察の設計)、学期末には、実際にいずれかの方法で質的調査を実施した結果をレポートにして提出する。

内容

1	質的調査の基本的性格
2	ドキュメント分析1: 公的記録の分析
3	ドキュメント分析2: 私的記録の分析1
4	ドキュメント分析3: 私的記録の分析2
5	インタビュー調査1: インタビューの種類
6	インタビュー調査2: インタビュー調査の事例1
7	インタビュー調査3: インタビュー調査の事例2
8	インタビュー調査4: インタビュー調査の設計
9	非参与観察1: 非参与観察の事例
10	非参与観察2: 非参与観察の設計
11	参与観察1: 参与観察の事例
12	参与観察2: 参与観察の技法
13	参与観察3: 参与観察の設計
14	質的調査と倫理
15	総括

評価

授業時の課題提出(40%)と学期末のレポート(60%)で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】

桜井 厚『インタビューの社会学』せりか書房、2002年。

W.I.トマス/F.ズナニエツキ『生活史の社会学』桜井 厚訳、御茶の水書房、1983年。

中野 卓『口述の生活史』御茶の水書房、1977年。

W.F.ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』寺谷弘士訳、垣内出版、1979年。

佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992年。

科目名	運営管理論基礎		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

経営科学の基本的な考え方と分析方法を学習する。

経営科学とは、経営上の問題を対象に、問題の要因と問題との関係を特定して数学的なモデルを構築し、そのモデルから導かれる解を現実の問題解決に役立てようとするものである。本講義では、統計学の復習から始めて、時系列分析と回帰分析による需要予測、在庫問題、線形計画法などについて学ぶ。

分析手法を理解し、Excel を用いてシミュレーションする方法を習得する。講義に加えてExcelでの演習を課すことで、典型的な問題をコンピュータを用いて自分で解決できるようになることを目標とする。

内容

- 1) 経営科学の概要
- 2) 統計学復習(1) 度数分布
- 3) 統計学復習(2) 統計的推測と検定
- 4) 時系列分析
- 5) 回帰分析
- 6) Excel による実習
- 7) 在庫管理
- 8) Excel による実習
- 9) 線形計画法(1) グラフによる理解
- 10) 線形計画法(2) シンプレックス法
- 11) Excel による実習
- 12) 待ち行列問題の概要
- 13) 待ち行列理論
- 14) シミュレーション
- 15) Excel による実習

評価

演習などにおける授業態度(30%)

レポート課題(70%)

合計で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	簿記演習 3 中級		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、「簿記初級」の知識に引き続き、会計学の根幹を成す簿記の原理と理論を体系的により深く学修することを目的に、企業のさらに複雑な商業活動の記帳方法と決算技法を習得する科目である。

科目の概要

具体的には、日商簿記検定試験 2 級の商業簿記の範囲に沿って、会計に関する深い考察力と応用力を養っていく。検定試験に必要な問題料確保のため、講義ではテキストの問題の他、プリント配布による練習問題も予定している。

学修目標

複雑な企業取引の内容を把握し、会計処理方法を十分に理解する。また企業取引の複合的な応用論点への対応力も習得する。講義終了時点では、日商簿記検定商業簿記 2 級の合格レベルを目標とする。

内容

1	簿記一巡の手続
2	現預金取引
3	有価証券取引
4	債権・債務取、手形取引(その1)
5	手形取引(その2)、引当金取引
6	商品売買取引
7	特殊商品売買取引(その1)
8	特殊商品売買取引(その2)
9	固定資産取引、損益取引
10	株式会社会計(その1)
11	株式会社会計(その2)
12	決算(その1)
13	決算(その2)
14	本支店会計
15	総合問題

評価

ミニテスト・課題レポート等(20%)、通常の授業態度(20%)、学修目標に基づく期末試験(60%)により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 『検定簿記講義2級商業簿記[平成25年度版]』 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著 (中央経済社) 700円

【推薦書】 『簿記一般教程』 武田隆二著（中央経済社）

科目名	企業情報システム基礎		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ERP(統合基幹情報システム)パッケージソフトの世界標準となっているSAP社、ならびに、SAP-R/3の有力テンプレートであるリアルモデルを用いて行われる経営シミュレーション演習。演習では「リアルモデルアカデミー初級」として、R/3を実際に操作することによりERPを学ぶとともに、企業における仕事の実務というものを知る。そして、R/3の運用により、取引の入力から貸借対照表や損益計算書が作成されるまでのプロセスを知ることにより、ビジネスの流れと簿記会計の関連性を理解する。この演習は、R/3が実際企業で使用されているのと同環境のもとで行なわれ、世界の先駆的実践経営シミュレーション演習である。受講者には初歩的な簿記、会計の知識が要求される。

内容

1	SAP-R3を用いてERP(統合基幹情報システム)に関する概要理解
2	R3の操作演習(1):基礎
3	R3の操作演習(2):実践
4	財務管理(FI)モジュールを使用し、各種会計取引の入力(1)
5	財務管理(FI)モジュールを使用し、各種会計取引の入力(2)
6	財務管理(FI)モジュールを使用し、各種会計取引の入力(3)
7	財務管理(FI)モジュールを使用し、各種会計取引の検索(1)
8	財務管理(FI)モジュールを使用し、各種会計取引の検索(2)
9	英文による上記会計処理演習(1)
10	英文による上記会計処理演習(2)
11	損益計算書,貸借対照表の作成(1)
12	損益計算書,貸借対照表の作成(2)
13	R/3先進導入企業の事例研究(1)
14	R/3先進導入企業の事例研究(2)
15	まとめ

評価

評価方法は、授業への参加態度(30点)、毎回の演習問題の提出(20点)、期末試験(50点)による総合的な評価とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の中でレジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	企業情報システム基礎		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ERP(統合基幹情報システム)パッケージソフトの世界標準となっているSAP社、ならびに、SAP-R/3の有力テンプレートであるリアルモデルを用いて行われる経営シミュレーション演習。演習では「リアルモデルアカデミー初級」として、R/3を実際に操作することによりERPを学ぶとともに、企業における仕事の実務というものを知る。そして、R/3の運用により、取引の入力から貸借対照表や損益計算書が作成されるまでのプロセスを知ることにより、ビジネスの流れと簿記会計の関連性を理解する。この演習は、R/3が実際企業で使用されているのと同じ環境のもとで行なわれ、世界の先駆的実践経営シミュレーション演習である。受講者には初歩的な簿記、会計の知識が要求される。

内容

1	SAP-R3を用いてERP(統合基幹情報システム)に関する概要理解
2	R3の操作演習(1):基礎
3	R3の操作演習(2):実践
4	財務管理(FI)モジュールを使用し、各種会計取引の入力(1)
5	財務管理(FI)モジュールを使用し、各種会計取引の入力(2)
6	財務管理(FI)モジュールを使用し、各種会計取引の入力(3)
7	財務管理(FI)モジュールを使用し、各種会計取引の検索(1)
8	財務管理(FI)モジュールを使用し、各種会計取引の検索(2)
9	英文による上記会計処理演習(1)
10	英文による上記会計処理演習(2)
11	損益計算書,貸借対照表の作成(1)
12	損益計算書,貸借対照表の作成(2)
13	R/3先進導入企業の事例研究(1)
14	R/3先進導入企業の事例研究(2)
15	まとめ

評価

評価方法は、授業への参加態度(30点)、毎回の演習問題の提出(20点)、期末試験(50点)による総合的な評価とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の中でレジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	企業情報システム応用		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ERP(統合基幹情報システム)パッケージソフトの世界標準となっているSAP社、ならびに、SAP-R3の有力テンプレートであるリアルモデルを用いて行われる経営シミュレーション演習。演習では「リアルモデルアカデミー中級」として、購買管理(MM)、生産管理(PP)、販売管理(SD)、管理会計(CO)、プロジェクト会計(PS)のモジュールを使用し、それぞれの業務内容や各業務における情報の流れについて学ぶ。これにより、経営学や企業戦略論等で学んだ会社経営についての疑似的体験学習を行う。

受講者には企業情報システム1の既習が望まれる。

内容

1	企業における業務システムの概要
2	取引入力 of 復習
3	取引検索 of 復習
4	購買活動に関する業務(1): 業務処理の理解、取引入力 of 説明
5	購買活動に関する業務(2): 取引入力 of 練習
6	生産活動に関する業務(1): 業務処理の理解、取引入力 of 説明
7	生産活動に関する業務(2): 取引入力 of 練習
8	販売活動に関する業務(1): 業務処理の理解、取引入力 of 説明
9	販売活動に関する業務(2): 取引入力 of 練習
10	管理会計と財務会計について: 会計システムの理解、取引入力 of 説明
11	経営における組織管理と管理会計について: 取引入力 of 説明・練習
12	英文による上記会計処理演習
13	R/3を操作するためのプログラミング基礎
14	購買・生産・販売に至る一連の業務活動プロセスについての練習
15	まとめ

評価

評価方法は、授業への参加態度(20点)、毎回の演習問題の提出(30点)、期末試験(50点)による総合的な評価により、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の中で講義レジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	ブランド戦略論		
担当教員名	崎山 嗣夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

私達の周りには数多くの「ブランド」が存在します。一般的には多くの若い女性が憧れるルイビトン・フェラガモ・グッチ等の世界的な知名度を持つ「ブランド」が有名です。でも、私達の身の回りにはシャンプーではラックス・椿・エッセンシャルなど、飲料ではコカコーラ・午後の紅茶・おーいお茶など、自動車ではクラウン・フィット・カローラなど、毎日を「ブランド」に囲まれて生活していると言っても過言ではありません。

そこで私達が「ブランド」を理解することは、身の回りに存在する多くの商品からの選択をする眼を養い、生活を豊かにすることに役立つと思います。一方商品やサービスを提供している企業に取っては「ブランド」の開発・育成は事業の発展に必要な要件ですが、企業が考える「ブランド」開発の狙いを知ることは、私達が「企業(会社)」を理解する上で大変有意義なことだと考えます。

授業では「ブランド」の定義、意義、価値について説明すると同時に、「ブランド」開発の過程や育成の方法についても具体例をお話しながら分かり安く解説をしたいと考えています。

「ブランド戦略論」を理解することは、日々の生活を充実させるために大切なことです。また同時に就活時の企業の選び方、また会社訪問の際の面接で色々な点で優位な状況を作る事になると思います。

ただ、「ブランド」を理解するには「マーケティング」の知識は大変重要です。日々変化する社会にあってマーケティングについて理解を深め、毎日を豊かな気持ちで生活するために幅広い視点で授業を進めて行く予定であります。

内容

1	授業全体の流れを概観すると同時に、「ブランド」とは何かを理解する。
2	「ブランド」開発に必要な「マーケティング」理論について解説する。
3	「マーケティング」の歴史的考察と同時に「経営学」との関係性を解説する。
4	創造的「マーケティング」発想の構造について説明する
5	創造的「ブランド」開発の基本的考え方について解説する。
6	情緒的ブランド価値(ピイトン等)と機能性価値ブランド(ラックス等)の相違点を解説する。
7	創造的「ブランド」を育成するための基本と、その過程について説明する。
8	創造的「ブランド」創出と商品開発の実例を解説する。
9	ヒット商品誕生のための要因を整理し商品開発の基本を理解する。
10	商品開発とリサーチの関係について具体例を上げて解説する。
11	「ルイ・ピイトン」を事例に「ブランド」の歴史や意義について深く理解する。
12	「ブランド」を創出し育成するための組織のあり方について説明する。
13	社会の変化に対応した「ブランド」の有り方について解説する。
14	「ブランド論」を理解することで、日本企業を元気にする処方箋を考える。
15	まとめ(「ブランド論」の理解を確認する)

評価

本講座における評価方法は、原則として出席の3分の2以上を満たして上で、期末テスト（ペーパーテスト）等により総合評価をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『目盛りを変えろ 日本が見える』 崎山 嗣夫著 （日本経済新聞社）

『企業改革への道 - 顧客視点の発想 - 』 崎山 嗣夫著 （日本経済新聞社）

科目名	国際経営論		
担当教員名	笠原 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

<科目の性格> 世界的な高度情報ネットワーク社会の進展と企業のグローバル化の急速な展開は、従来の年功序列、終身雇用といった日本的慣行をも崩壊させ、個々の従業員の能力が問われる時代を日本企業は迎えている。本講では、こうした企業のグローバル化が生じた理由および企業経営の変遷を大企業を事例にして概説し、さらに国際経営戦略論の立場から問題点を検討して、地球企業社会の方向性を明示する。これにより就職先決定へのヒントを提示するとともにグローバル社会で働く意義を理解させる。

<科目の概要> 経営学は他の学問と異なり絶対原理はない。個々の企業の盛衰は個々の状況によって異なるゆえ、ケース・スタディ - (事例研究) によって検証する方法を採る。本講では、多数の事例をあげて国際経営および経営の基礎をわかりやすく解説し、就職で有利になるよう導く。最後に私の専門とするホテル、航空会社業界の問題点も加えて、グローバル企業の方向性を多角的に検討する。

<学修目標>

- 1 世界のグローバル化の潮流および国際経営の必要性を理解する
- 2 企業社会でのグローバルな人材としてのセンスを身につけ、就職先決定へのヒントを得る
- 3 人間はなぜ働き、企業は成長しなければならないかを理解する
- 4 異文化経営の問題、とくに日本的経営の特徴について深く理解する
- 5 BOPビジネスを例にグローバル化による経済格差(貧困層)の解決策を考える

内容

1	企業とは何か。経営とは何か。 -夢を実現させる方法- (事例:東京ディズニーリゾート)
2	経営学の誕生とその必要性 ? 経営学を学ぶ意味- (事例:ハーバード大学)
3	国際企業に至るまでのプロセスとその戦略 -日本発のコンビニ- (事例:セブンイレブン)
4	日本企業の国際化戦略1 ? この世にないモノを創造する- (事例:ソニー)
5	日本企業の国際化戦略2 ? 人間はなぜ働くのか- (事例:ホンダ)
6	日本企業の国際化戦略3 ? デザインが命- (事例:日産)
7	日本企業のグローバル戦略 ? 協働の強さ- (事例:トヨタ、富士通)
8	日本的経営の原理とその海外移転 ? 日本人はなぜコンパが好きなのか-
9	米国経営学の系譜 ? 人間はなぜサボるのか、そしてやる気を起こすには-
10	米国巨大企業のグローバル戦略 ? No.1になるとなぜ得なのか- (事例:GE)
11	米国巨大グローバルIT企業の実態 ? カリスマ経営者の夢- (事例:アップル)
12	起業経営とグローバル・ボーンカンパニー ? 会社を創る意義- (事例:HP、グーグル)
13	グローバルリーダーの条件 ? 家族の父親と母親、そして経営者、政治家に共通するもの-
14	グローバル・サービス産業 ? 航空業界の将来、CAはどうなるの?- (事例:日本航空)
15	総括 グローバル格差社会とBOPビジネス -世界の貧困層をどう救うか- (ユニクロ他)

評価

学修目標に関するレポート（40点）、出席票裏に課す小テストを含む授業への参加度（60点）で総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】加藤茂夫編、笠原伸一郎ほか著『経営入門 -よい経営の創り方、よい経営の学び方』（学文社）

【参考図書】笠原伸一郎著『グローバル企業の史的展開』（中央経済社）、笠原伸一郎編『図説 国際ビジネス』（中央経済社）、江夏健一編『新版 理論とケースで学ぶ国際ビジネス』（同文館出版）335.5/R、ジェフリー・ジョーンズ著『ビューティビジネス』（中央経済社）、日経新聞、その他授業中に指示する。

科目名	企業の危機管理		
担当教員名	藤本 正徳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

多くの学生が卒業後就職する企業や産業を取り上げる。

科目の概要：

日本の企業の概要と、近年社会的に話題となっているテーマ(例：コーポレートガバナンス、CRS、グローバル化、M&A、日本的雇用と非正規雇用、企業の不祥事、事故と規制等)を具体例を交えて取り上げ、その背景と課題を複眼的視点から見て行く。

学習目標：

社会生活に必要な商品やサービスを供給する企業についての基本的概念の理解と、現代の企業が社会との関係で直面する主要な課題について理解する事を目標とする。

内容

1. ガイダンス：授業方針、経済学と経営学について、社会と企業との関連について
2. 企業とは何か：企業の歴史と発展について、その目的と主要形態
3. 企業の仕組み：株式会社の主要な構造と仕組み、その特性
4. 現代企業の変遷：企業数と規模、主要企業のシェアと雇用、栄枯盛衰
5. 企業の評価：企業価値と企業ランキングの構成要素
6. 企業の社会的責任：企業理念と社会的責任、CSR、環境問題
7. 会社は誰のものか：株主の権利と各種ステークホルダーとの共生
8. 法規制と企業統治：企業不祥事とコーポレートガバナンス
9. 日本の経営：欧米企業との経営比較、企業文化、慣行の違い
10. グローバル化と企業：国際化企業活動と、異文化に於けるリスク・課題
11. 企業合併と敵対的買収：業務・資本提携、企業統合・合併、敵対的買収
12. 日本の雇用慣行とその変遷：終身雇用からの変遷、非正規雇用の課題
13. 企業経営と危機管理：倒産、事故、政治・社会リスク
14. 外資系企業とは：日本に進出している外資系企業の特性
15. まとめ：講義の総括と追加テーマ

評価

中間レポート(40%)、最終レポート(60%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

企業論「新版補訂版」、三戸浩・池内秀巳・勝部伸夫（著）、有斐閣アルマ

科目名	企業の危機管理		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門科目であり、ビジネス経済学を履修後に、経済学的な視点からの企業を取り上げる。

科目の概要

日本企業におけるコーポレートガバナンスをアメリカとの比較で行う。また、企業が立ち向かう様々な危機を具体的に取り上げ、どのようにその危機を乗り越えていくかを検証していく。また、近年話題のM&Aや会社法改正についても取り上げる。さらに、雇用の問題を企業側、労働者側双方から見ていく。

学修目標

企業論に関する基礎的な概念と、現在の企業が抱えている諸問題について理解することを目標にする。

内容

1	ガイダンス
2	企業とは何か
3	株式会社の歴史
4	株式会社の仕組み
5	コーポレートガバナンス
6	敵対的買収
7	CSR
8	財閥と企業グループ
9	グローバル化と企業
10	日本的経営
11	日本的雇用慣行
12	正規雇用と非正規雇用
13	日本と世界の経営比較
14	企業不祥事
15	まとめ

評価

中間のレポート(40%)、最終のレポート(60%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

開講時に指示する。

科目名	企業倫理		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

学生が、アルバイト等で既に接している企業、そして将来、多くの学生が、就職等で一員となる企業(会社)が、社会からどのような倫理行動を要求されているのか、更には、そのメンバーとして、どのような事が求められ、どのような事が禁止されているかを、理解して貰う講座である。特に、企業の一員としての将来を考えている学生には、必須の内容と言える。

企業は本来、顧客の満足を収益という形で得る事が最大目的の集団である。しかしながら、今日、社会に対する企業活動の影響力は日に日に増大、一方、企業経済の自由度は拡大、企業も自己責任型の経営が求められている。その結果、企業も社会の一員として務めを果たす事が、必須条件となっている。企業のちょっとした、配慮の不足した、倫理に反した行動が、最悪当該企業の経営破たんとなる事例が散見される。本講座では、学生参加型の授業運営で、社員が守るべき事、企業が守るべき事を習得していく授業展開を目指す。

社会の一員としての企業が、守り実施すべき企業倫理の本質を理解するとともに、社員として要求される事も合わせて理解する。更に、関連するコーポレートガバナンス、コンプライアンス、環境マネジメント、CSR(企業の社会的責任など)についても理解する。

内容

1	ガイダンス(授業の進め方、企業とは?企業倫理とは?コンプライアンスとは?)
2	企業不祥事事件1.
3	企業不祥事事件2.
4	企業不祥事がどうして企業倒産にまで至るのか?
5	企業倫理を求められる実情、コンプライアンスは企業存続に不可欠?
6	コンプライアンスとは?
7	コンプライアンス違反
8	コンプライアンスの法令(事業活動において、消費者に対して、)
9	コンプライアンスの法令(従業員に対して、インターネット、その他)
10	コンプライアンスの実践1.
11	コンプライアンスの実践2.
12	企業における企業倫理確立、コンプライアンス体制づくり
13	コンプライアンスと内部統制、CSRの関係
14	企業倫理に係るその他関連用語
15	まとめ

評価

平常点60点(授業参加姿勢、随時小レポートなど)、期末テスト40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の進展、必要に応じて適宜紹介していく。但し、講義の始まる前の夏休みの間に、次の本を一読することを推薦する。

田中宏司著・実践！コンプライアンス・PHP研究所

科目名	産業論		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

共通科目 十文字学「総合」の選択科目 "変貌する産業界への探訪"

科目の概要

多くの学生が将来、働く事になる、あるいは、色々な接点を持つ、日本の産業界は、昨今、大きく変貌しつつあり、その状況は、一般企業人にも非常に判りにくくなっている。昨年に続き、今回も、各産業界の状況に精通されている企業トップの方々に、本校へおいで頂き、実際の業界の状況を判り易くご紹介頂く。又、この機会に、各企業における女性社員の活躍ぶり、トップとして、女性社員に望む事も合わせてお話し願う。更に、学生からの自由な質疑の時間を設け、学生を持つ種々な疑問点に答えて頂く。尚、将来企業に就職せず、教職等の進路を考えている学生にも、実際に教職の場に立った際に、生徒児童達のご父兄の殆どが一般企業に勤務されておられる事を考えると、現在の産業界の状況を把握出来る本講座は大変有用だと思われる。

学修目標

本講座を通して、学生は、其々の業界の実態、方向性を把握し、将来の自分の進路の選定の材料とする。合わせて、大学での更なる必要履修項目の選定材料を提供する。

内容

講義は、大筋下記日程で取り進められる予定だが、講師及び個々の日程については、一部変更になる可能性がある。

1	9/25	ガイダンス及び各講師の紹介	
2	10/2	自動車業界(電気自動車他)	三菱自動車工業(株) 益子社長
3	10/9	物流業界	(株)山 九 村上専務
4	10/16	金融サービス業界	三菱UFJリース(株) 白石社長
5	10/23	不動産業界	東急不動産(株) 小倉専務
6	10/30	商社業界	三菱商事(株) 小林社長
7	11/6	外食産業	日本ケンタッキー・フライド・チキン(株) 渡辺社長
8	11/13	精密電子半導体関連業界	(株)ニコン 木村社長
9	11/20	石油化学業界	大洋塩ビ(株) 有馬社長
10	11/27	食品業界	麒麟ビール(株) 磯崎社長
11	12/4	印刷業界	トッパンフォームズ(株) 櫻井社長
12	12/11	コンビニ、スーパー業界	イオン(株) 横尾専務
13	12/18	保険業界	ニッセイアセットマネジメント(株) 宇治原社長
14	1/8	放送業界	(株)フジテレビジョン 嘉納専務
15	1/15	まとめ	

評価

授業への取り組み姿勢（50%）、最終時のレポート（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特になし、適宜授業時に資料を配布。

科目名	マーケティングリサーチ		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、世界的に多様な分野において利用されている統計パッケージSPSSを用いて、実践的なマーケティングリサーチの手法について学ぶことを目的としている。マーケティングリサーチの手順と方法について知ると共に、調査票の作成、調査の実施、データ分析、発表の一連の作業について実習を行い、実践力を身につける。

内容

- 1 マーケティングリサーチとはなにか
- 2 リサーチプロセスと課題の発見
- 3 リサーチデザインとデータ収集
- 4 質問紙の作成(1)技法
- 5 質問紙の作成(2)演習1
- 6 質問紙の作成(3)演習2
- 7 調査の実施とデータ入力
- 8 SPSSによる調査データ処理
- 9 SPSS による調査データ分析(1)基本統計
- 10 SPSS による調査データ分析(2)検定・分散分析
- 11 SPSS による調査データ分析(3)回帰分析・因子分析
- 12 グラフ作成技法
- 13 プレゼンテーション作成技法(1)
- 14 プレゼンテーション作成技法(2)
- 15 課題発表

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 通常授業における課題提出(30%)
- 2 . 最終課題の達成度(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】『『MBAマーケティングリサーチ入門』高田博和 他 著(東洋経済新報社)

『SPSS でやさしく学ぶ統計解析』室・石村著(東京書籍) 417/M

科目名	消費者と法		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コース 選択科目 経営科目群のなかの、選択必修科目である。

科目の概要

私たちは、通信販売で洋服を買う、映画を見る、旅行会社でツアーに申し込む、電車にのるといったあらゆる日常生活の場面で私たちは誰もが「消費者」として生活している。つまり「事業者」から物やサービスを購入し、利用しているのである。しかし、販売方法も多様化し、社会も複雑化している状況の下、大量生産・大量販売といった機能が事業者により一方的に担われている。そして、消費者と事業者には情報力・経済力等の格差が存在する。そのため、様々な消費者トラブルが発生する可能性が常にある。そこで、消費者トラブルの発生しやすい場面や現代的な課題を取り扱い、紛争解決の仕組みを検証する。

科目の目標

日常の消費生活において消費者を事業者から守る法律とその意義、各種悪徳商法の対策と法、トラブル発生後の消費者救済の仕組みについて学ぶ。また、賢い消費者としての必要な知識を身につけ、消費者トラブルと法の機能と限界について説明できるようにする。また、知識取得のみならず、消費者問題に関連する新聞記事などを利用し文章読解能力・文章表現力を身につけ、また事例を検討することにより論理的思考力や課題解決力の養成も目指します。

内容

1	【総論】消費者法 ガイダンス、消費者と事業者、民法
2	【総論】消費者契約法 悪徳商法と消費者
3	【総論】特定商取引法 訪問販売、クーリング・オフ
4	【各論】高齢者・未成年者の法律問題
5	【各論】金融機関と消費者問題
6	【各論】信用取引と消費者問題
7	【各論】破産・倒産と消費者
8	【各論】マルチ商法・ネズミ講
9	【各論】不動産と消費者問題(前半)
10	【各論】不動産と消費者問題(後半)
11	【各論】情報化社会と消費者問題
12	【紛争解決と消費者】裁判所と消費者、裁判所以外の窓口(ADR)と消費者
13	【紛争解決と消費者】行政と消費者
14	【紛争解決と消費者】教育と消費者
15	まとめ

評価

提出物・授業態度(50点)、ペーパーテスト(50点)を総合して評価する。

100点満点中60点が単位取得の下限となる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

開講時に指示する。その他、必要に応じて適宜資料を配布する。

科目名	ビジネス実務法務初級		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性質

コース専門科目の「経営科目群」に位置づけられる。「消費生活と法」などとともに履修するとビジネスを行う上での法的課題を経営者側・消費者側双方の視点で検討でき、理解が深まる。

科目の概要

金融業・不動産業・販売業などお金が動くビジネスの場面を想定して、関連する法律と問題解決法を学ぶ。事例を基礎におき、具体的には、民法総則、物権法、担保物権法、債権法といった民法の各分野をはじめ、その他各種私法がどのように関係し、問題解決の機能を果たしているのかについて学ぶ。またその限界や課題についても検討する。

学習目標

- ・ビジネスに関連する基本的な法律の知識と教養を身につける。
- ・事例を検討することにより、論理的思考力や課題解決力の養成を目指す。
- ・事例や時事問題を利用し、文章読解力・文章表現力を身につける。

内容

1	ガイダンス 金融と法律・金融と民法
2	ビジネスの主体(自然人・法人)
3	ビジネスと代理
4	消費者金融ビジネスと法
5	中古品販売ビジネスと法
6	新品販売ビジネスと法
7	不動産の賃貸借ビジネスと法(1)
8	不動産の賃貸借ビジネスと法(2)
9	不動産の販売ビジネスと法(1)
10	不動産の販売ビジネスと法(2)
11	事例演習
12	住宅ローンと抵当権
13	預金取引と法律
14	企業の社会的責任と法令遵守
15	総括

評価

レポート、ワークシート等の提出物・受講態度(50点)、ペーパーテスト(50点)を総合して評価する。100点満点中60点が単位取得の下限である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

開講時に指示する。

科目名	意思決定手法基礎		
担当教員名	安田 順		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)/ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目では、社会のどの分野で活動するにしても必要となる問題解決のプロセスについて検討する。

授業では、問題解決の基盤にあるリフレクション(reflection; 省察)という概念を取り上げる。さらに、このリフレクションを使って、日常場面やビジネス場面で質の高い問題解決、スピーディな問題解決がどうしたら実現できるか考える。

この授業の目標は、

第一にリフレクションは過去をふり返ることに限定されず、未来を予測することも重要な側面であるという、その全体像とプロセスを理解すること、

第二にその理解を小テスト・期末試験において明確に示せるようになること、

第三に演習を通して問題解決能力を向上させることである。

内容

- 1 問題解決とリフレクション
- 2 過去をふり返るリフレクション
- 3 未来を予測するリフレクション
- 4 リフレクションの基盤にあるもの
- 5 リフレクションへの反対勢力
- 6 対人での問題解決
- 7 グループでの問題解決
- 8 リフレクションのフレームとは
- 9 リフレクションのレパートリーとは
- 10 問題解決を妨げるもの
- 11 問題解決の系譜(1)
- 12 問題解決の系譜(2)
- 13 問題解決のためのコミュニケーション(1)
- 14 問題解決のためのコミュニケーション(2)
- 15 まとめ

評価

期末試験(60%)、授業冒頭の小テスト(40%)という配分で評価する。また、授業中に作成・提出するリアクションペーパーの内容は加点要素として評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。必要に応じて、授業中にプリントを配付する。

推薦書は授業中に適宜紹介する。

科目名	監査論		
担当教員名	浅野 昌孝		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

監査論の基礎知識を習得する。

監査論は、会計学に比べて内容が抽象的になるので、可能な限り新聞等で報道された事例・事件をとりあげて講義を進めていく。こうした時事的な問題を取り上げて、監査についての理解を深める。

学修目標としては、講義で配布するレジメと資料をもとに、時事的な問題をつうじて監査論の基礎を理解すること。

内容

1	当年度講義の概要、新聞記事等に見る監査をめぐる事例等
2	監査の意味と必要性
3	監査の意味と必要性
4	監査の種類
5	監査人
6	監査人
7	日本の監査制度
8	監査基準
9	監査の実施プロセス
10	内部統制監査
11	監査意見と監査報告書
12	監査意見と監査報告書
13	四半期レビュー・連結財務諸表監査
14	監査が抱える課題
15	まとめ

評価

毎回の講義内容についての簡単なレポート(60点)と筆記試験(40点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、レジメを配布する予定。

科目名	ビジネス税務		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

ビジネスパーソンにとって必要不可欠な税金の基礎を学修する科目である。

科目の概要：

法人税や所得税にとどまらず、消費税や不動産等に関する税金まで、ビジネスにかかわる税金を幅広く学修する。

学修目標：

本科目では、ビジネス社会における税務実務の基礎知識を身につける。

内容

1	オリエンテーションと税務トピックス
2	暮らしの税金
3	サラリーマンが身につけておきたい税金知識
4	所得税の基礎知識
5	給与所得とは
6	所得税額の計算と確定申告
7	寄付金等の所得控除について
8	自営業者が知っておくべき税金知識
9	自営業者の確定申告
10	会社経営に必須の税金知識
11	会社に関連する税金
12	会社の利益と所得の関係
13	交際費課税等
14	金融資産の運用、保険・年金と税金の関係
15	不動産と税金

評価

学修目標に関するレポート等(20点)、学修目標に基づく筆記形式のテスト(60点)、通常の授業態度等(20点)により総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト(教科書)】財団法人納税協会連合会『新くらしの税金百科2012 - 2013』清文社

科目名	ライフ設計		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生命保険について学ぶことは、一人ひとりの人生や生活設計を考えるきっかけとなり、また、国民生活にかかる保障システムを理解するうえでも大変有益です。

科目の概要

「生命保険の基礎的な知識」から「生命保険の果たす役割」、「生命保険契約のしくみ」、「保険魏者の業務」など、社会保障問題を背景に今後一層高まるであろう生命保険について幅広く学習します。

学修目標

生命保険に関する基本的な知識の修得を目指します。

内容

1	オリエンテーション
2	生命保険総論 : 生活とリスク管理
3	生命保険総論 : 生活設計
4	生命保険の種類 : 死亡保障
5	生命保険の種類 : 医療保障
6	生命保険の種類 : 老後保障
7	生命保険の種類 : 介護保険
8	生命保険契約のしくみ
9	生命保険商品の動向
10	損害保険の種類 : 車の保険
11	損害保険の種類 : 住まいの保険
12	生命保険会社の業務
13	総括
14	試験
15	まとめ

評価

試験(100%)で評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書: 授業中に配布するプリント。

推薦書：授業中に指示する。

科目名	証券市場論		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門科目であり、金融に関する講義である。

科目の概要

経済のいろはから日本の資本市場の全容、そして株式投資・債券投資・グローバル証券投資・分散投資の方法や投資とリスク&リターンの考え方などを実務の観点から解説します。

学修目標

経済の基本からスタートして、投資についての基本的な考え方を理解する。

内容

1	ガイダンス
2	経済事情事始め
3	外国為替のいろは
4	リスト&リターン
5	ポートフォリオの考え方
6	債券入門
7	株式入門
8	投資信託入門
9	投資家心理を学ぶ
10	資産運用とライフプランニング
11	日本株の歴史
12	金融の仕組み
13	財政の仕組み
14	金融市場のゆくえ
15	まとめ

評価

中間試験(30%)、最終試験(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	金融論		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門科目であり、金融分野の基礎科目である。

科目の概要

金融の基礎的知識と理論を幅広く学習していきます。マクロの金融政策からミクロの金融理論、金融制度についても学習します。さらに話題の金融に関するテーマについても取り上げます。FP 技能士、証券アナリスト等の試験にも対応します。

学修目標

金融に関する基礎的な概念を理解し、金融の諸問題についての理解を深めることを目標にする。

内容

1	ガイダンス
2	金融とは何か
3	日本銀行の組織
4	日本銀行の役割
5	伝統的な金融政策
6	非伝統的な金融政策
7	日本のバブル
8	サブプライムローン
9	国債危機
10	銀行と証券会社の機能
11	生命保険会社と損害保険会社の機能
12	金融監督政策
13	外国為替市場
14	世界金融危機と日本
15	まとめ

評価

中間試験(30%)、最終試験(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	ファイナンスの数理と実務		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門科目であり、1, 2年次の講義をまとめてさらに実践する科目である。

科目の概要

1980年代以降、アメリカを中心に発展してきた金融工学について理解することを狙いとする。特に、先物取引やオプション取引などのデリバティブ商品などについて詳しく扱う。金融に内在するリスクの定量化には数理的な側面を避けて通れないのだが、パソコンを利用することで、あまり数学の世界に深入りしないでも、かなりの不確実性を数値にすることが可能となっている仕組みを理解する。また、さまざまな金融商品を学習し、その上で、株取引や為替取引のシミュレーションを経験する。

学修目標

デリバティブなどの概念を理解する。

内容

1. ガイダンス
2. ファイナンスとは何か
3. ファイナンスの統計処理基礎
4. 財務分析
5. 投資の考え方
6. 株式投資の実際
7. ポートフォリオの構成
8. 債券の計算
9. 先物取引
10. オプション取引
11. スワップ取引
12. 投資信託などの金融商品
13. 証券分析の演習
14. 外国為替取引
15. まとめ

評価

毎回の課題(60%)、最終課題(40%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	角田 真二、廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するために、キャリアサポート では就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指した授業を行う。就職活動においてSPIや一般常識は重要な第一歩であり、それをクリアすることは必要条件となる。こうした基礎知識を、解説を含めてわかりやすく学習し、基礎力向上につなげる。就職活動に必要な学習であるので、多くの学生が受講することが望まれる。

内容

1. SPI概要—SPIとは、SPIの考え方、使われ方など

2. 非言語分野の学習

年齢算、仕事算、旅人算、流水算

グラフ・領域、資料解釈、空間把握

順列組み合わせ、確率、n進法

運動力学など

3. 言語分野の学習

同意語、反対語、ことわざ・慣用句

包含関係、行為関係、原料関係、用途関係

複数の意味、長文問題など

各ステージで言語、非言語の両分野を事例にもとづき解説する。

評価

小テスト(50点)、期末試験(50点)等をもとに総合評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	栗原 隆史、亀田 温子、鶴木 恵子、森田 勝之 他		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現在活躍している30代40代の女性が、今まで、どのような経験を積み上げ現在に至っているか、話を聴き、仕事をする女性たちの生き方を学ぶ。同時に、学生自身が将来の自分の可能性を切り開くために大学時代に何を行ったらよいか支援を行う授業である。他のキャリア関連の授業では、会社のトップに企業の全体像を話してもらったり、比較的若い卒業生に、就職活動や面接について話を伺っているが、それらの授業とは異なり、長く仕事をしてこられた女性に長期的な視点で話をしてもらい、そのような視点で、自分の将来像について考える授業である。

現在、活躍している女性たちの事例に触れながら、仕事をする事、社会とかがかわることの意味や自分の成長、生き方について考え、職業生活をスムーズにスタートさせるための基盤をつくる。

まず、ワークショップ形式でキャリア形成の基本となる考え方と各自が抱えている仕事に対するイメージを整理する。次いで10名の職業人からそれぞれの仕事を持つ魅力について、職業観・仕事観についての話を聴く。最後のワークショップでは、社会人講師の話を聴き、職業生活から得られるものは何かを考え、本授業を通じて各自の仕事に対するイメージがどう変化したか確認する。

- ・社会で活躍する女性の状況をとらえる。
- ・自分自身の将来のさまざまな可能性について、各分野で活躍する女性たちの事例を通して考える。
- ・大学生活をいかに過ごしたら将来の可能性が広がるか、大学時代に何をすべきかを考え、実行できるようにする。

内容

3回から12回までの外部講師の講演の順番はこの通りではありません。授業の最初にお知らせします。

1	ガイダンス、ワークショップ1(仕事に対する自分のイメージを認識する)担当(亀田)
2	ワークショップ2(わたしのキャリアの棚御し) 担当(亀田)
3	轟美弥子氏(リコージャパン)営業職の魅力と私の仕事の紹介 担当(栗原)
4	和田氏(トップシーン)女性がメディアの世界で生きるTips10 担当(森田)
5	藤原ゆき(富士通株式会社)システムエンジニアの仕事 人生楽しく 担当(栗原)
6	小島直子氏(ロートレ・アモン)アパレル業界 接客ならではの苦労、楽しさ~担当(柏葉)
7	畠山一郎ほか(広告社)前半:コミュニケーションをデザインする仕事 担当(栗原)
8	芝田尚子(ザ・プリンス)ホテルコンシェルジュに学ぶ、究極のサービス業 担当(鶴木)
9	佐藤美里(物流会社に勤務)物流・貿易の仕事について 担当(鶴木)
10	有明三樹子(りそなホールディングス)地球人として生きる 担当(柏葉)
11	諸戸彩乃氏(NPOカタリバ)社会人10年目、東北での仕事を選んだ私 担当(森田)
12	佐野扶美枝(花王)化粧品のマーケッターに必要なこと 担当(亀田)
13	ワークショップ3(自分にとっての仕事について考える) 担当(亀田)
14	ワークショップ4(仕事についての考え方の変化、今後の計画) 担当(亀田)
15	まとめ(総括討論) 担当(栗原)

評価

講師講演ごとに提出するリスト（60点）、ワークショップ4回の課題（30点）、および最終回の全体レポート（10点）の計100点で総合評価する。合わせて60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に随時紹介する。

科目名	インターンシップ入門		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本講義は、「インターンシップ」及び「短期インターンシップ」履修の事前授業である(「インターンシップ」「短期インターンシップ」を履修する場合は必ず履修すること。)

科目の概要

企業が求めている人材とは、ビジネスマナー、インターンシップの受け入れ先である私企業、地方自治体などについての基本的な知識とインターンシップの内容、インターンシップをする際の基本的な常識などについて指導する。

学修目標

インターンシップとは、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことである。大学における社会につながる人材育成の一環として、社会の変化や産業界のニーズに対応し、社会における能力発揮を目的とし、社会とのつながりを考えられる力を育成する。インターンシップは就職活動に直結しないが、インターンシップを経験することで充実した就職活動が可能となる。

内容

1	ガイダンス(講義の進め方の説明、注意事項など)
2	企業とはなにか、企業が期待する女性社員
3	企業のインターンシップ1 情報系(夢科情報、エム・エス・デー)
4	企業のインターンシップ2 出版系(あさ出版、埼玉新聞社)
5	企業のインターンシップ3 営業・販売系(東和エンジニアリング・丸正飯塚)
6	企業のインターンシップ4 外食・食品系(ケンタッキー、スカイラーク)
7	企業のインターンシップ5 広告・印刷系(興文堂、東急アド・コミュニケーション)
8	企業のインターンシップ6 金融系(りそな銀行・むさし証券)
9	企業のインターンシップ7 化粧品 教育(ウテナ、ウィズダム・アカデミー)
10	自治体のインターンシップ (和光市役所、新座市役所)
11	資生堂 Top Beauty Specialist 西島悦さんのメイク実演
12	ビジネスマナー講座1 服装、電話の受け方、挨拶、職場での態度など
13	ビジネスマナー講座2 言葉遣いの再確認、電話対応、メール、名刺の扱いのルールなど
14	尊敬語・謙譲語などの確認、自己PRの作成
15	自己PRの報告、レポートの作成

評価

レポートの内容(60%)、グループワークやその報告の内容(20%)、授業態度(20%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、提示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

演習 ・ で学んだことを基礎に、卒業研究としての論文作成作業を進め、最終的に論文を完成させます。

科目の概要：

金融やその他企業の活動にかかわるビジネス法等を、生活者・消費者の視点から、また、ビジネスパーソンの視点から考察します。契約を中心として、私法の分野からアプローチしてゆきます。文献収集、参加者による報告、論文執筆を通じて、法律とその背景や、現在の社会をめぐる状況を踏まえ、その機能・限界を理解したうえで、展望について検討します。

学習目的：

広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。

内容

3年生時の研究テーマ、ゼミ・レポートを踏まえて、各自選択した卒業研究テーマの研究を進めます。前期にはテーマの確定、構想、文献調査を行い、後期にはそれをもとに卒業研究を論文の形に仕上げ作業を進めてゆきます。

評価

研究会での参加の積極性、卒業研究の進捗状況・内容により総合的に評価します。100点満点の60点が単位取得の下限です。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必修科目である。

科目の概要

演習 に引き続いて、卒業論文の完成を目指し、さらにプレゼンテーション用の資料を作成する。

学修目標

卒業論文の完成を目指す。

内容

卒論の完成を目指す。アウトラインに基づいて執筆を始める。さらに発表でのコメント、教員の指導のもと修正を図りながら完成させる。

評価

卒業研究に対する積極的な準備と意欲的な態度（40点）及び、課題発表等の達成度（60点）を総合して判断し、評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】随時教室にて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

4年間の集大成として卒業論文を完成する。3年次までに習得した知識、特に、演習で学んだアプローチ方法や分析手法を用いて身近なビジネスに関する問題から学術上や実務におけるビジネスや経営に関わる論点の中から、各自の興味に応じて設定したテーマに基づき研究し論文にまとめる。主体的に研究に取り組むことにより、自主性、積極性といった精神的態度を涵養すると同時に、自らの有する知識や技術を統合し応用する能力を育てる。

内容

3年次の演習 において設定した各自の研究テーマに関し、文献や資料の収集・調査、また、インタビューを実施し、最終的な研究テーマや研究方法を決定する。テーマに関する論点に関し、必要なデータを収集し適切な解析方法を用いて分析する。さらに、自らの視点でテーマに関する現象解明、仮説構築、論理展開等を行い、論文にまとめる。各自の最終成果について概要のプレゼンテーションを行う。

評価

日頃の研究に対する取り組み姿勢(30点)、と論文(70点)により総合的評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書使用せず

科目名	卒業研究		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習において学んだ知識と技術を生かし、実際に調査を実施する。自らテーマ・仮説の設定を行い、調査対象を特定して、調査項目ならびに調査票を作成する。一方分析のための入力フォーマットを決定し、データ入力から分析、まとめにいたる一連のプロセスを遂行することにより、これまで学んできた知識を実践に生かす力を養う。

内容

- 1 研究テーマ・組織の確定
- 2 仮説設定・調査対象の特定
- 3 テーマ・研究目的・仮説についてのディスカッション(1)
- 4 テーマ・研究目的・仮説についてのディスカッション(2)
- 5 既存データ・資料・文献の検討(1)
- 6 既存データ・資料・文献の検討(2)
- 7 調査項目作成のためのワーク(1)
- 8 調査項目作成のためのワーク(2)
- 9 調査表作成(1)
- 10 調査票作成(2)
- 11 調査票作成(3)
- 12 調査票作成(4)
- 13 調査票に関するディスカッション
- 14 予備調査準備
- 15 予備調査実施

評価

通常の活動状況、調査の実践状況、分析知識と技術等を総合して行う。

割合は活動状況30%、卒業論文50% プレゼンテーション20%とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

『SPSSでやさしく学ぶ統計解析』室淳子・石村貞夫著(東京書籍)

『よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方』鍵和田京子・石村貞夫著(東京図書)

科目名	卒業研究		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必須科目

科目の概要

3年生の演習では、企業について、基本的な事柄を理解してきた。本演習では、さらに一步踏み込み、その本質、仕組み、運営それに伴う理論と実際について修得を目指す。その過程で得た知見を基に、卒業論文の作成に入る。

学修目標

卒業論文作成の資料集め等の準備を整える。

内容

実際の企業のケースを題材に、学生との自由な議論、演習を通じて、企業の本質、仕組み、運営それに伴う理論について理解する。その手法を展開して、実企業の分析、問題点を検討する素地を見つけ出す。

評価

演習への参加姿勢及び卒業論文への準備状況に依って評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じて適宜資料を提供する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究 は、演習 に引き続き、企業の財務諸表分析や企業経営の考え方を会計、税務の両面から幅広く検討し、必修である卒業研究論文を作成する科目である。

演習 に引き続き、会計学、税制の基礎力の確認を行った後、各自の卒業研究テーマを確定し、研究作業に入る。進捗状況に応じた数回の卒業研究発表では、パワーポイント等のソフトウェアを利用して発表を行う。卒論テーマは会計学、税制の範囲に限らず、幅広い分野からのテーマ設定が可能である。発表におけるプレゼンテーションやディスカッションを通してスピーディな資料の作成能力や発言力、ソフトウェアを利用した表現力、効果的な発表力等を身につける。

学修目標としては以下の4点をあげる。

1. 早期卒論テーマの確定。
2. 基礎的分析力、問題点の把握とその解決能力の習得。
3. 研究に関する基礎能力の育成。
4. 効果的なプレゼンテーションスキルの向上。

内容

1	オリエンテーション、トピックス
2	各自卒業研究計画の策定
3	卒論方法論確認
4	卒論テーマ発表、資格試験対策・就職対策等
5	卒論発表、資格試験対策・就活対策等
6	卒論発表、資格試験対策等
7	中間発表会
8	修正後卒論発表
9	卒論発表、資格試験対策等
10	卒論発表、資格試験対策等
11	卒論発表、資格試験対策等
12	卒論発表、資格試験対策等
13	卒論発表、資格試験対策等
14	卒論発表、資格試験対策等
15	総括

評価

卒論発表(50%)、レポート・ホームワーク等の作成(20%)、ディスカッション等ゼミナール参画態度(30%)により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

資料・推薦書等については、ゼミの進捗状況に応じ授業内で指示する。また必要に応じ適宜プリントを配布する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必修科目である。

科目の概要

卒業研究 に引き続いて、卒業論文の完成を目指し、さらにプレゼンテーション用の資料を作成する。

学修目標

卒業論文の完成を目指す。

内容

卒業研究 に引き続いて、卒論の完成を目指す。アウトラインに基づいて執筆を始める。さらに発表でのコメント、教員の指導のもと修正を図りながら完成させる。

評価

中間での発表(30%)、卒業論文(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

4年間の集大成として卒業論文を完成する。3年次までに習得した知識、特に、演習で学んだアプローチ方法や分析手法を用いて身近なビジネスに関する問題から学術上や実務におけるビジネスや経営に関わる論点の中から、各自の興味に応じて設定したテーマに基づき研究し論文にまとめる。主体的に研究に取り組むことにより、自主性、積極性といった精神的態度を涵養すると同時に、自らの有する知識や技術を統合し応用する能力を育てる。

内容

3年次の演習 において設定した各自の研究テーマに関し、文献や資料の収集・調査、また、インタビューを実施し、最終的な研究テーマや研究方法を決定する。テーマに関する論点に関し、必要なデータを収集し適切な解析方法を用いて分析する。さらに、自らの視点でテーマに関する現象解明、仮説構築、論理展開等を行い、論文にまとめる。各自の最終成果について概要のプレゼンテーションを行う。

評価

日頃の研究に対する取り組み姿勢(30点)、と論文(70点)により総合的評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書使用せず

科目名	卒業研究		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習において学んだ知識と技術を生かし、実際に調査を実施する。自らテーマ・仮説の設定を行い、調査対象を特定して、調査項目ならびに調査票を作成する。一方分析のための入力フォーマットを決定し、データ入力から分析、まとめにいたる一連のプロセスを遂行することにより、これまで学んできた知識を実践に生かす力を養う。

内容

- 1 予備調査結果の基づく検討
- 2 調査票訂正
- 3 本調査の実施
- 4 変数管理・入力フォーマット作成
- 5 データ入力・クリーニング作業
- 6 調査データ分析(1)
- 7 調査データ分析(2)
- 8 調査データ分析(3)
- 9 調査データ分析(4)
- 10 論文作成(1)
- 11 論文作成(2)
- 12 論文作成(3)
- 13 発表資料・プレゼン作成(1)
- 14 発表資料・プレゼン作成(2)
- 15 発表

評価

通常の活動状況、調査の実践状況、分析知識と技術等を総合して行う。
割合は活動状況30%、卒業論文50% プレゼンテーション20%とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

『SPSSでやさしく学ぶ統計解析』室淳子・石村貞夫著(東京書籍)

『よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方』鍵和田京子・石村貞夫著(東京図書)

科目名	卒業研究		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

演習 ・ で学んだことを基礎に、卒業研究としての論文作成作業を進め、最終的に論文を完成させます。

科目の概要：

金融やその他企業の活動にかかわるビジネス法等を、生活者・消費者の視点から、また、ビジネスパーソンの視点から考察します。契約を中心として、私法の分野からアプローチしてゆきます。文献収集、参加者による報告、論文執筆を通じて、法律とその背景や、現在の社会をめぐる状況を踏まえ、その機能・限界を理解したうえで、展望について検討します。

学習目的：

広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。

内容

3年生時の研究テーマ、ゼミ・レポートを踏まえて、各自選択した卒業研究テーマの研究を進めます。前期にはテーマの確定、構想、文献調査を行い、後期にはそれをもとに卒業研究を論文の形に仕上げ作業を進めてゆきます。

評価

研究会での参加の積極性20%、卒業研究の進捗状況・内容により80%で評価します。100点満点の60点が単位取得の下限です。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必須科目。

科目の概要

前期までに習得した知見、収集した多くの材料を、分析検証して卒業論文をまとめる。

学修目標

卒業論文の完成

内容

卒論テーマに対し、前期までに収集した材料を、検証分析し、一つの結論を導き出すという一連の論文形成作業を行い、卒業論文として取りまとめる。尚、これを限られた時間内に、要点をまとめ発表するという発表作業をもって最終卒論完成とする。

評価

演習への取り組み姿勢と卒業論文の成果

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

演習作業の進展に伴って、適宜必要な物を指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究 は、卒業研究 に引き続き、企業の財務諸表分析や企業経営の考え方を会計、税務の両面から幅広く検討し、必修である卒業研究論文を完成する科目である。

卒業研究 に引き続き、各自の卒業研究をさらに発展させ、まとめの作業に入る。卒業研究 と同様、進捗状況に応じた数回の卒業研究発表を行う。発表に際しては、パワーポイント等のソフトウェアを利用し、効果的な発表を行う。なお、卒論テーマは会計学、税制の範囲に限らず、幅広い分野からのテーマ設定が可能である。発表におけるプレゼンテーションやディスカッションを通してスピーディな資料の作成能力や発言力、ソフトウェアを利用した表現力、効果的な発表力等を身につける。また科目に関連する資格取得をサポートする。

学修目標としては以下の5点をあげる。

1. 年内における卒業論文ドラフトの完成。
2. 基礎的分析力、問題点の把握とその解決能力の習得。
3. 研究に関する基礎能力の育成。
4. 効果的なプレゼンテーションスキルの向上。
5. 可能な範囲内での資格取得。

内容

1	オリエンテーション、トピックス
2	各自卒業論文研究計画の策定
3	卒論方法論再確認
4	卒論発表、資格試験対策等
5	卒論発表、資格試験対策等
6	卒論発表、資格試験対策等
7	中間発表会
8	修正後卒論発表
9	卒論発表、資格試験対策等
10	卒論発表、資格試験対策等
11	卒論発表、資格試験対策等
12	卒論発表、資格試験対策等
13	卒論発表、資格試験対策等
14	最終卒論発表会
15	総括

評価

卒論発表(50%)、レポート・ホームワーク等の作成(20%)、ディスカッション等ゼミナール参画態度(30%)に

より総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

資料・推薦書等については、ゼミの進捗状況に応じ授業内で指示する。また必要に応じ適宜プリントを配布する。